

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択） 令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 <small>(○が代表大学)</small>	千葉大学		
主たる交流先	米国		
事業名	【和文】	COILを使用した日米ユニーク・プログラム	
	【英文】	Japan-U.S. Unique Program by COIL (COIL JUSU)	
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	渡邊 誠	(所属・職名) 理事 (教育・国際担当)
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.las.chiba-u.jp/jusu/information/index.html>

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

平成30(2018)年度に選定されて以来、本年度は3年目を迎え、15コース30科目を開講するに至った。中でも本学の国際教養学部は、国際政治、アジア交流史、ポップ・カルチャー、宗教学など多岐にわたる分野で科目を実施するだけでなく、「国際日本学」の基礎科目から国際教養学部専門科目まで難易度の面でも幅広い科目を設置することにより、国際教養学部のみならず全学の学生に国際協働学修への参加を促す役割を果たしたと言える。また、実践的な教育という面では、看護学部、工学部、教育学部の提供する科目の果たした役割が大きい。Smart Learningの全学展開に向けて、COVID-19によるオンライン授業の強化は追い風になったとも言え、これまでの取り組みを最大限生かして学びを継続することができた。今年度のCOIL参加者数は、千葉大学412名、米国4大学合計174名であり、これは計画における目標値であった240名、120名をそれぞれ大幅に上回ることができた。今後は、ASEAN諸国を中心とした米国以外の国々も加えたCOILプログラムの開発に取り組み、国際協働学修体制のさらなる強化を実現する予定である。

【特に優れた取組】

ニュースクールとの間で新規開講したData Visualization & Machine Learningは、情報を視覚的に表現する手法を学び、日米混合のチームでプロジェクトを遂行する形式で進められた。プラットフォームとして、Zoomのほか、GitHub, colab, MURAL等を利用し、同時双方向のオンライン講義や演習が行われた。履修者には、企業でプログラミングを実践している社会人学生もいる一方、意欲的な学部生の参加もあったため、知識のギャップを埋めるためにTAがきめ細かなフォローアップを行い、多様な学生間の国際協働学修を実りあるものとすることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

COVID-19は学生の派遣・受け入れに厳しい状況をもたらしたが、一方で遠隔授業へのハードルを引き下げることとなり、新規プログラム開講への双方の意欲、環境整備が向上した。元来、日米間では時差が大きく同時双方向での実施がきわめて困難であることが課題であるが、双方においてこのハードルを乗り越えて実施しようという機運をもたらしている。同時双方向での時間を有効に活用するためにも、非同期型ディスカッションを十分に活用して全体をデザインする重要性を共有することができた。

【特に優れた取組】

法政経学部と国際教養学部の連携により「中東政治と日米関係」を開講した。中東政治を専門とする法政経学部教員の講義をe-learningで提供することにより、日米双方で中東政治に基礎知識を共有した上で、Moodleを利用して非同期型ディスカッションを日米関係を専門とする国際教養学部教員がファシリテートするデザインで実施された。同時双方向の最終プレゼンテーションにおいては「平和」や「安全保障」に対する日米学生のパーセプションの違いを実感するやり取りが展開され、国境を超えたディスカッションにおいて多様な思考のあり方に触れることを重視していたアラバマ大学のCOILパートナーからも高い評価を得られた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

また、COILコーディネーターが中心となり、COIL-TAの研修体制を構築した。更に、国際教養学部において「国際教養学研修プログラム」という名称でCOIL専用の単位認定制度を整備し、柔軟な新規科目開発が可能な体制が実現した。

【特に優れた取組】

「国際教養学研修プログラム」として、「パンデミックと国際組織」、「中東政治と日米関係」といった学際的テーマを設定したCOILプログラムの開発に取り組み、学際性を重んじる国際教養学部の学びを充実させる一助ともなった。一部、他学部学生にも開放し、学生同士の教え合いによる相乗効果を期待した試行も行ったが、それぞれの強みを生かしたグループ学修につながった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

ウェブページ(<http://www.las.chiba-u.jp/jusu/index.html>)においてプログラムの実施報告を行うだけでなく、国際協働学修をテーマとするシンポジウム等に積極的に参加し、学内外へのグッドプラクティスの共有を図った。また、学外向けの教職員研修プログラムである「千葉大学ALPS講座」では本事業担当教員が講師を務め、COILの幅広い普及に貢献した。また、各プログラムの教育成果についても積極的な発信に努めており、国際学会での成果報告も行われた。

【特に優れた取組】

教育学部とアラバマ大学の連携科目「Public and Private」において、取り組み成果が2020年12月の全国社会研究評議会(National Committee for the Social Studies)による遠隔方式の国際会議で発表され、最優秀論文賞を獲得した。報告タイトルはCollaborative, Online, and International Learning to Promote Civic Competence in Japan and the US.

(2) 特記すべき成果

COIL参加者数は、千葉大学412名、米国4大学合計174名であり、計画における目標値であった240名、120名をそれぞれ大幅に上回った。質的な面でも充実度を増し、情報の視覚化をテーマとするData Visualization & Machine Learningの、複数学部による学際的企画としての「中東政治と日米関係」などの新規開講に加え、教育学部が取り組んできた社会科教育の国際協働学修が国際会議において最優秀論文賞を受賞した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

●ファシリテーター養成

日米間のディスカッションにおいて、ファシリテーションが重要であることから、ブレイクアウトルームの際に各グループにTAを配置することが検討され、COILコーディネーターによるTA育成計画が策定された。学生間の発言を活発化する効果を生むことが期待される。

●非同期型ディスカッションの活用

日米間の時差の大きさから、非同期型ディスカッションの活用がプログラムを充実させるための鍵である。非同期型ディスカッションは入念なデザインとインターバルにおける教員の効果的な介入により大きな効果を発揮することが分かった。グッドプラクティスを全体会議で共有しており、今後のCOILデザインにプラスの効果をもたらすことが期待される。

●E-learningの効果的活用

法政経学部と国際教養学部の連携により「中東政治と日米関係」を開講した。中東政治を専門とする法政経学部教員の講義をe-learningで提供することにより、日米双方で中東政治に基礎知識を共有した上で、Moodleを利用して非同期型ディスカッションを日米関係を専門とする国際教養学部教員がファシリテートするデザインで実施された。ディスカッションに入る前に日米双方で基礎知識の定着をチェックするプロセスがあると、学習効果が大きい。TAが事前学修のまとめとして知識確認のセッションを行うことにより、ディスカッションの質が大きく向上するようになった。

●多様なツールの利用

Data Visualization & Machine Learningでは、プラットフォームとして、Zoomのほか、GitHub, colab, MURAL等を利用し、同時双方向のオンライン講義、GitHubとcolabを用いた演習が行われた。履修者には、企業でプログラミングを実践している社会人学生もいる一方、意欲的な学部生の参加もあったため、知識のギャップをある程度埋めるためにTAがきめ細かなフォローアップを行い、多様な学生間の国際協働学修を実りあるものとすることができた。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		15人	20人	25人	25人	25人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	15人	20人	22人	22人	22人
	COIL型教育の活用の有無	有 15人	有 20人	有 22人	有 22人	有 22人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	3人	3人	3人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 3人	有 3人	有 3人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (A=小計1+2)	15人	20人	25人	25人	25人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	15人	20人	22人	22人	22人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	15人	20人	22人	22人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	3人	3人	3人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	3人	3人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	17人	64人			35人			0人			0人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		64人	0人	0人	0人	35人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	17人	64人	0人	0人	0人	35人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)													
COIL型教育の活用の有無	有	17人	64人	人	人	35人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)													
COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)													
COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)													
COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	113.3%	320.0%			140.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

本年度はCOVID-19のパンデミックに鑑み、本学においては全学的に実渡航を伴う海外留学プログラムは原則として中止され、当初計画における学生の実渡航による交流が実現できなかった。しかしながら、Zoom・GitHub・colab等の交流ツールを用いつつ、日米間でのオンライン交流を実施し、結果として計画目標を上回る35名という実績をあげることが出来た。なお、達成目標に対する本実績の達成割合は140%である。

2020年度は、上記の苦しい状況ながら本学の「全員留学」開始の年にあたることもあり、全学的に質保証を伴う代替プログラムが模索されていたが、元々、本事業においては、オンラインを積極的に活用した枠組みを既に形成していたことが幸いし、オンラインによる日米間交流を引き続き進めることが出来たとと言える。

これら様々な困難を伴う状況下であることを考えると、140%の達成率は大きな成果であると言える。

今後のモビリティの復活については、ワクチン接種が日米両国で順調に推移していることを考えると期待できるかもしれない。もちろん日米間の物理的距離や学習効率を考慮し、オンラインでのプログラムの充実を図るのももちろんだが、実渡航を伴う交流によってしか得られない経験も貴重であるため、実渡航が可能となった際には、オンラインと対面のハイブリッド形式での交流プログラムを実施し、学生にとって、従来のプログラム以上に質の高い体験を提供し、更なるプログラムの充実化を図りたい。

一方で、オンラインのみによる交流については、準備や交流中の補助が時差などの関係で大変手間がかかるという大きな問題点はあるものの、オンラインでの交流では旅費や滞在費が不要であるため学生への負担が少ない、というメリットがある。そのため、モビリティの復活に今しばらく時間を要する場合には、COILコーディネーターの増員（新規採用）等により人的資源を強化することでより多くの学生に派遣代替プログラムを体験させたいと考えている。

【特に優れた取組】

「Data Visualization & Machine Learning」コースは、COVID-19による緊急事態において時宜にかなうプログラムとして新規に構築された。パンデミックに関するさまざまな情報が正確かつ広範囲に伝達される必要性が高まっている中で、データを可視化する技術やデザインは旬のトピックであったと言える。講義を踏まえての演習においてはTAが時差を越えて献身的にサポートを行い、参加者の技能習得に貢献した。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)	15人	20人	25人	25人	25人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	15人	20人	22人	22人	22人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	3人	3人	3人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無

●海外相手大学追加調査分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	無	無	無	無	無

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)	15 人	20 人	25 人	25 人	25 人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
(内訳)	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
(内訳)	0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	16 人	38 人			28 人			0 人			0 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		38人	0人	0人	0人	28人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	15 人	38 人	0 人	0 人	0 人	28 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	15 人	38 人	人	人	人	28 人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	1 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	106.7%	190.0%			112.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

本年度は実渡航が派遣同様に困難であった。そのため、オンラインにて28名の米国学生を受入れ、交流を行った。なお達成目標に対する本実績の割合は112%である。本年度は実渡航が出来なかったことから、既存プログラムの内容の充実化も併せて行っており、実施したプログラムの中でも特に、アラバマ大学との取り組みである「Public and Private」コースのCOIL実践については、国際会議「National Council for the Social Studies」においてその成果を発表し、2020年度のNCSS IA Best Paper Award(最優秀論文賞)に選定されるなど対外的にも高い評価を得ている。

なお、パンデミックにおける日米の状況は対照的で、令和2年中は米国における状況がきわめて深刻であり、たとえばアラバマ大学では秋学期を対面授業で開始したが、数週間で何千人もの学生が陽性となり隔離スペース（寮）でオンライン授業を受講せざるを得ない学生が続出した。連携する米国4大学はいずれも国際交流プログラムの一時中止を決定した。一方、日本の感染者数は相対的に少なかったが、防疫の観点から日本政府の入国規制は厳格化し、交流プログラムにおける受け入れを実行できる環境になかったと言える。しかし、米国では年末から大学におけるワクチン接種が開始され、高齢の教職員から順に接種が順調に進み、年度末には学生への接種も開始された。本学の第6ターム（2～3月）には米国側もかなり落ち着きを取り戻し、オンラインによる交流を実施することができた。

米国側はワクチン接種をほぼ終えていることもありモビリティの復活にきわめて前向きである。令和3年度中には日本側もワクチン接種が進むことが予想され、年度末にはモビリティの復活も期待される。

【特に優れた取組】

「Public and Private」コースでは、非同期型・同期型を組み合わせることで日米の社会科教育の共通性と相違点について議論し、しおり作成の協働作業を実施した。現代社会が抱える課題について、ビジュアルを用いて端的に要約した内容を表面に、その詳細な解説を裏面に記したしおりを作成するものであり、事前に作成したルーブリックに基づいて、しおり課題の成果を検討した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	6				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	8	16	16	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	14	17	28	31	42
全授業科目数 (B)	6800	6800	6800	6800	6800
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	120	120	240	240	360
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	60	60	120	120	180

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	26	30		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	15	34	38		
全授業科目数 (B)	6193	6445	6163		
割合 (A/B)	0.2%	0.5%	0.6%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	66	402	412		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	53	210	174		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	6				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	8	16	16	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	14	17	28	31	42
全授業科目数 (B)	6800	6800	6800	6800	6800
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	120	120	240	240	360
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	60	60	120	120	180

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	26	30	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	15	34	38	0	0
全授業科目数 (B)	6193	6445	6163	0	0
割合 (A/B)	0.2%	0.5%	0.6%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	66	402	412	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	53	210	174	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		アラバマ大学	認定者数	4	6	7
	認定単位数	1	3	4	4	5
シンシナティ大学	認定者数	5	6	8	8	8
	認定単位数	1	3	4	4	5
ニュースクール大学	認定者数	3	4	5	5	5
	認定単位数	1	3	4	4	5
ストーニーブルック 大学	認定者数	3	4	5	5	5
	認定単位数	1	3	4	4	5
年度別認定者数合計		15	20	25	25	25
年度別認定単位数合計		4	12	16	16	20

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	0	0	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		アラバマ大学	認定者数	0	0	0
	認定単位数	0	0	0		
シンシナティ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ニュースクール大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ストーニーブルック 大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	東京大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	日米のCOIL型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム		
	【英文】	Japan-America Program for COIL-style Education of World-leading Global Engineering Specialists		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	染谷 隆夫	(所属・職名) 東京大学大学院工学系研究科長	
	(交替年月日)	平成31年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	クレムソン大学	Clemson University	米国
	2	カリフォルニア工科大学	California Institute of Technology (Caltech)	米国
	3	スウェーデン王立工科大学	KTH Royal Institute of Technology	スウェーデン
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://ja-coil-weng.t.u-tokyo.ac.jp/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における <u>2020年度</u> の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 COIL型教育：先端国際人材育成の「東大・MIT国際講義」では、学生派遣・受入の実渡航ができなかったが、MIT教授による特別講義や、MITのTAからの指導をオンラインで受けることができ、双方向の充実した講義が実現した。COIL型教育：国際化教育では、昨年に引き続き、Caltechとオンラインで言語交流プログラムを実施した。Caltechの日本語学習者とZOOMを利用して、英語と日本語でディスカッションしながら協力してプロジェクトに取り組んだ。また、新たに今年度からMITとのオンライン言語交換プログラムを実施し、これに加えてKTHとも文化交流に関するプログラムを開始した。
【特に優れた取組】 「東大・MIT国際講義」では、実渡航は実施できなかったが、 <u>MIT側の教員やTAとオンラインで対話することで、バーチャルな国際交流の機会を増やすことが可能となり、世界での活躍を志向した資質や能力の必要性を学部学生に実感させ、留学意識を高めることができた。</u> 国際化教育の一環として実施したMIT、KTHとのオンラインによる言語交換・文化交流プログラムには、 <u>工学部のみならず全学から多数の学生が参加した。そのノウハウを生かし、同様のプログラムを他の海外大学とも実施するよう横展開した。</u> 実渡航ができない状況下において、多くの学生の関心に応えることができ、学生の海外への意識を高めることができた。（ミュンヘン工科大学（TUM）との言語交換プログラムに、東大生79名、TUM学生73名が参加）2021年度からは単位を付与する授業科目にも組み入れて実施する予定である。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 ・相手大学MITは世界のトップ校であり、世界トップレベルの学生・教員との交流が可能となっている。 ・同様に工学系分野での世界トップ校であるCaltech、KTHを新たに連携校として追加し、COIL型交流プログラムを工学系のみならず全学の学生に提供した。
【特に優れた取組】 MIT側の事情により、構想調書で計画していたM-Skypeが中止となったが、その後も継続して協議を続け、新たに2020年度から言語交換プログラムを再開した。新たに連携校として追加したKTHについては、 <u>本学と通常の大学間学術交流協定を超える総合的・互恵的で特別な関係性を持つ「戦略的パートナーシップ大学」の相手校でもあり、交換留学の実績もあるため、COVID-19の収束状況により、派遣・受入の活発化が期待できる。</u>
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 ・工学系研究科・国際推進課では、多数の派遣・受入学生の在籍管理、緊急時の対応を行ってきた実績があり、その経験とノウハウを生かして学生の派遣・受入をスムーズに進めている。 ・2020年度はCOVID-19の影響で、本事業での派遣・受入はなかった。COVID-19への対応についても、関係教職員が密接に連携し、大学・研究科として感染状況に応じて活動実施可否について適切な判断を行った。
【特に優れた取組】 ・実渡航が実現できない状況下であったが、本事業のみならず、研究科全体で、海外大学学生との言語交流、文化交流のイベントが多数企画され、海外学生との交流の機会が提供された。また、COVID-19収束後を見据えて、留学報告会・体験会および在籍している留学生との交流会等をオンラインで実施し、海外留学への関心を喚起するよう努めた。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 ・本事業のサイトをプログラムの広報に活用している。 ・交換留学で派遣された学生の報告書を、MIT留学への関心喚起と情報提供に利用している。
【特に優れた取組】 ・COVID-19の影響により、海外とのオンライン授業・オンライン交流が全学的な広がりを見せる中、本事業が先行事例としてより全学に広く認知された。
(2) 特記すべき成果
<u>「東大・MIT国際講義」を2年次に受講した学生3名が2020年度にMITへの交換留学に応募し、MITの求める非常にハイレベルな要件を満たし、MIT側から受入許可された。</u> 渡航が可能になれば2021年9月からの留学が確定している。これら3名の学生には、2021年3月、現地での学習環境を想定した英語集中講座を実施した。COIL型教育：先端工学人材育成「東大・MIT国際講義」受講を中長期のMITへの留学に繋げる、という本事業の目的に沿った効果が現れている。国際化教育で実施したCaltechとの言語交流プログラム、MITやKTHと実施した言語交換・文化交流プログラムは、2021年度には単位付の授業科目として本学で開講する予定である。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

・「COIL型教育：国際化教育」に関し、2020年度よりオンライン国際交流プログラムを開始し、異なる背景を持つ海外大学生と交流することにより、異文化理解の促進を図るとともに、国際コミュニケーションを実践する機会を提供している。2020年度はKTHを相手大学として追加し、KTHの日本語学習者と本学の学生/留学生を対象として、COILを活用した文化交流を実施し、オンラインにて英語によるグループディスカッションを重ね、最後にグループプレゼンテーションを行った。

・本事業の主たる連携校であるMITとは、2020年10月にオンラインで「東大－MIT言語交換プログラム」をスタートさせ、前述のとおりKTHとも同様に11月にオンラインで「東大－KTH文化交流プログラム」を実施した。前者に関しては、MITの日本語学習者と本学工学部で学ぶ学生/留学生を対象とし、オンラインにて英語・日本語を言語交換しながらペアワークし、最後に各ペアで選んだテーマに関する短い動画を作成した。2020年度は授業外の課外活動として実施したが、2021年度は単位付き授業科目「国際連携（特別）演習IX－国際理解とコミュニケーション」にもこれらの活動を組み入れる予定である。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		20人	35人	40人	50人	55人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	15人	30人	35人	45人	50人
	COIL型教育の活用の有無	有 15人	有 30人	有 35人	有 45人	有 50人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	5人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 5人	有 5人	有 5人	有 5人	有 5人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	2人	2人	4人	4人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	1人	1人	2人	2人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 1人	有 1人	有 2人	有 2人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	1人	1人	2人	2人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 1人	有 1人	有 2人	有 2人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 人	有 人	有 人	有 人	有 人
		無 人	無 人	無 人	無 人	無 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		20人	37人	42人	54人	59人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	15人	31人	36人	47人	52人
	COIL型教育の活用の有無	有 15人	有 31人	有 36人	有 47人	有 52人
		無 0人	無 0人	無 0人	無 0人	無 0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	5人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 5人	有 5人	有 5人	有 5人	有 5人
		無 0人	無 0人	無 0人	無 0人	無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	1人	1人	2人	2人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 1人	有 1人	有 2人	有 2人
		無 0人	無 0人	無 0人	無 0人	無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
		無 0人	無 0人	無 0人	無 0人	無 0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	39 人	28人 人			50人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		28人	0人	0人	0人	50人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	34人	21人	0人	0人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	34人	21人	人	人	人	6人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	5人	0人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人	3人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	4人	0人	0人	0人	44人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	4人	人	人	44人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	195.0%	75.7%			119.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

- ・2020年度の計画どおり、MITとの「東大・MIT国際講義」、Caltechとの言語交流プログラムを実施したが、COVID-19感染拡大のため、実渡航は実施できなかった。しかし、実渡航ができない影響を最小限にするため、「東大-MIT国際講義」では、MIT教授による科学技術倫理に関する特別講義実施等を実施し、東大側学生と相互に対話しながら、MITの実際の講義形式を体験することができた。また、ZOOMにてMITのTAによるバックアップ体制を固めて、テーマ決めから発表まで東大側学生に対して細かい指導を受けることができた。東大6名、MIT6名の受講者があった。
- ・Caltechとの東大との言語交流プログラムは、Caltechの学生がペアまたはトリオでチームを組み、「バイリンガル」形式で、プロジェクト型の学習をZoomを用いて行った。東大8名、Caltech側学生は日本語を学習している6名が受講した。2021年度には東大にて単位付きの授業として、開講予定である。
- ・実渡航が実施できない状況を補うべく、COIL型教育：国際化教育のプログラムとして、MIT、スウェーデン工科大学との言語交換/文化交流プログラムを新たに今年度より10月～12月にかけてそれぞれ約1か月間ずつにわたり開講した。KTHとの文化交流プログラムは全学を対象に学生を募集し、文系の学生の参加もあった。2021年度にはこれらのプログラムを組み込んだ単位付き授業を東大にて開講予定である。

【特に優れた取組】

- ・昨年度、MIT側の事情でM-Skypeが中止となったが、継続して協議を続け、「言語交換プログラム」の開始に至った。同様の取り組みを拡大しつつあり、12月から1月にかけてミュンヘン工科大学ともオンライン言語交換プログラムを実施したところ、東大79名、TUM73名の参加があった。東大の学生のうち75%は工学系以外の学生からの参加であり、派遣や留学の機会が失われている現状下、工学系の取り組みが全学の学生に波及効果を及ぼしている。
- ・取組内容で記載したとおり、「東大・MIT国際講義」受講者の中からMIT留学希望者がでて、交換留学による派遣が確定しており、COIL型教育：先端工学人材育成プログラムの成果が表れてきている。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)		15 人	40 人	40 人	55 人	55 人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0 人	15 人	15 人	25 人	25 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 15 人	有 15 人	有 25 人	有 25 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 5 人	有 5 人	有 5 人	有 5 人
	無	無 5 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	10 人	20 人	20 人	25 人	25 人
	COIL型教育の活用の有無	有 10 人	有 20 人	有 20 人	有 25 人	有 25 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)		0 人	1 人	2 人	4 人	4 人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 2 人	有 2 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0 人	1 人	2 人	2 人	2 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 1 人	有 2 人	有 2 人	有 2 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)		15 人	41 人	42 人	59 人	59 人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0 人	16 人	16 人	27 人	27 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 16 人	有 16 人	有 27 人	有 27 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 5 人	有 5 人	有 5 人	有 5 人
	無	無 5 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	10 人	20 人	21 人	27 人	27 人
	COIL型教育の活用の有無	有 10 人	有 20 人	有 21 人	有 27 人	有 27 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	COIL型教育の活用の有無	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人	有 0 人
	無	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人	無 0 人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	16 人	15人 人			30人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		15人	0人	0人	0人	30人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	14人	0人	0人	0人	24人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	14人	人	人	人	24人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	0人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	1人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	11人	0人	0人	0人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	11人	人	人	人	6人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	5人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	106.7%	36.6%			71.4%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

- ・ COVID-19感染拡大のため、2020年度はMITとの交換留学が中止となったため、単位取得を伴う3ヵ月以上の交流が実施できなかった。
- ・ 実渡航が実施できないため、すでに（派遣）で既述のとおり、オンラインで実施できる交流に注力し、特に国際化教育で今年度より実施したMITとの言語交換プログラム、KTHとの文化交流プログラムには連携校側から多数の学生が参加した（MIT15名、KTH24名）。KTH側では同プログラムはすでに単位付きの授業の一部となっている。東大においても、同プログラムは、2021年度より単位付き講義として開講予定である。

【特に優れた取組】

- ・ 新規連携校として追加したKTHとは本事業以外にも課外活動として様々なオンライン交流が並行して2020年度から実施されている。KTHで日本語を学習している学生が日本語で自由に会話をする機会として毎週実施しているランゲージカフェに日本語ボランティアとして本学学生が参加したり、互いの社会や文化的背景について学ぶグループワークを行う文化交流プログラムが開始されたり、2021年度からは学生1対1でお互いの言語を学びあう言語交換（タンデム）プログラムなどが開始予定であったりなど、COVID-19の状況下でのオンラインによる学生交流が活発化している。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

- 本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年3月	MIT留学内定者対象英語集中講座	3 人
		人
		人
		人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	3	3	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	12	12	13	13
全授業科目数 (B)	13200	13200	13200	13200	13200
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	35	55	60	70	70
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	15	40	45	55	60

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	1	1		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	13	13		
全授業科目数 (B)	13200	13200	13200		
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	43	26	50		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	16	14	51		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	3	3	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	12	12	13	13
全授業科目数 (B)	13200	13200	13200	13200	13200
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	35	55	60	70	70
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	15	40	45	55	60

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	1	1	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	13	13	0	0
全授業科目数 (B)	13200	13200	13200	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	43	26	50	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	16	14	51	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
マサチューセッツ工 科大学	認定者数	5	5	5	5	5
	認定単位数	55	55	55	55	55
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	5	5	5	5
年度別認定単位数合計		55	55	55	55	55

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	1	1	1	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
マサチューセッツ工 科大学	認定者数	5	3	0		
	認定単位数	65.5	41	0		
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	3	0	0	0
年度別認定単位数合計		65.5	41	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択） 令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 <small>（〇が代表大学）</small>	○東京外国語大学、国際基督教大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践		
	【英文】	TransPacific Collaborative Online International Learning for Multiculturalism and Conflict-Resilience		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	（氏名）	岩崎 稔	（所属・職名）	大学院総合国際学研究院・教授
	（交替年月日）			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名			国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL <small>※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用</small>				
http://www.tufs.ac.jp/tp-coil/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

- ・【COIL型教育】2020年度の連携校間のCOIL授業科目数は目標値を超過達成、多岐にわたるラインナップを提供した。COIL型教育の受講者数の増加に寄与した（2019年度比：日本人学生+55名、外国人学生数+43名）。
- ・【COIL型教育からの連続としての学生交流】8名の学生の中長期派遣をオンラインを通じて実施した。また、交流事業として、「Language Exchange」、「オンラインスタディツアー」を実施し、累計（日本人学生）44人、（米国人学生）130人が参加した。
- ・【インターンシップ・プログラム】オンラインスタディツアーにインターンシップの要素を盛り込み実施した。
- ・2021年度以降もオンラインを活用し、実渡航の再開を見据え、以上の活動、新規活動を実施していく予定。

【特に優れた取組】

- ・COIL型教育において、「教室接続型」、「授業開放型」、「課外活動型」と昨年度に比して様々なタイプのCOIL型教育を企画し、教授内容に合わせ同期・非同期を混在させ最適なデザインで学生に提供した。
- ・オンラインを活用することにより学生の米国提携大学での学びの機会を確保でき、ニューノーマルにふさわしい新たな国際交流の一つの形を提示することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

- ・米国連携大学の教員とオンラインプログラムや意見交換等を随時実施した。また、7月には、事業統括を行う第3回日米TP-COIL協議会、3月には外部の専門家を交えた回部評価委員会を開催しプログラムの調整や改善を行った。

【特に優れた取組】

- ・アメリカにとどまらず、チュニジア等の他国との連携の可能性を模索し、大学間交流の維持・拡充を行うことで、結果としてCOIL科目の発展とCOIL教育の波及に寄与した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・（米国連携校からの受入）連携校の留学担当課との連絡体制を維持し、状況や情報を逐次共有している。
- ・（日本学生の派遣）本事業に関する日本の学生向けの説明会を春・秋に開催した。

【特に優れた取組】

- ・日本・米国の学生それぞれに「Language Exchange」、「オンラインスタディツアー」を提供した。COIL型教育の「課外活動型」に分類し、自国にしながらフィールドワークを通じ、相手国を学べる内容に仕立て、提供した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

- ・（大学の国際化）本事業及び大学内のホームページ上で日本語、英語により国内外へタイムリーに情報発信を行った。加えて、米国連携大学と協力し、多種多様なCOIL型教育の企画・実践を行った。
- ・（情報の公開、成果の普及）COIL型教育のノウハウをセミナー等を通し他展開力事業や大学全体へと普及させた。

【特に優れた取組】

- ・外部媒体を通じた情報公開として、朝日新聞EduAに本事業の紹介記事が掲載された。
- ・成果の普及として、西東京3大学合同オンラインセミナー「ポストコロナ時代における国際教育・研究の在り方」に本事業コーディネーターが登壇し本事業で培った知見を共有することで、大学間の成果の普及を推進した。

(2) 特記すべき成果

・COIL型教育の開発・類型化を実施。アメリカ以外の国・地域の大学ともCOIL型教育を実施することで学生に多様な機会を提供した。「教室接続型」では、非同期・同期の形式を交えて教室同士を接続してCOIL型教育を実施し学生の学びの機会を拡大した。「授業公開型」では、インターンシップ機能を持たせた就業体験科目を、米国連携大学の学生も履修した。「課外活動型」では「Language Exchange」、「オンラインスタディーツアー」の機会を提供した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

・「授業開放型」に基づく授業について、特にオンラインを有効に活用した。具体的には、東日本大震災含む福島
の災害に関する就業体験科目を準備し米国学生にも開放することで、米国学生が福島の住人とオンラインで直接話
をして勉強し、日本の学生と協働する機会を創出した。

・「課外活動型」にも基づく活動としては、「オンラインスタディーツアー」において有効にオンラインを活用し
た。学生が自国にいながらにして相手の国の文化・社会等をフィールドスタディ形式で学ぶことが可能であり、オ
ンラインだからこそ実践できたという側面もあり、有益な機会を学生に提供した。

・感染症の影響が終了した後も、このような形式の教育プログラムを継続することは、経済事情等の理由で対面の
留学が制限されている学生たちにとって有益な学習機会となるだろう。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)	29人	33人	37人	41人	45人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	8人	8人	8人	8人	8人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	4人	4人	4人	4人	4人
	無	無	無	無	無
	4人	4人	4人	4人	4人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	21人	25人	29人	33人	37人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	1人	2人	3人	4人	5人
	無	無	無	無	無
	20人	23人	26人	29人	32人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	人	人	人	人	人
	無	無	無	無	無
	人	人	人	人	人

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)	29人	33人	37人	41人	45人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	8人	8人	8人	8人	8人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	4人	4人	4人	4人	4人
	無	無	無	無	無
	4人	4人	4人	4人	4人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	21人	25人	29人	33人	37人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	1人	2人	3人	4人	5人
	無	無	無	無	無
	20人	23人	26人	29人	32人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)					
COIL型教育の活用の有無	有	有	有	有	有
	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	52 人			66 人			8 人			0 人			0 人		
	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
	66人	0人	0人	0人	8人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】															
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	14 人			19 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	7 人			18 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	7 人			1 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	38 人			43 人	0 人	0 人	0 人	8 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	0 人			5 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	38 人			38 人	人	人	人	8 人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0 人			4 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	人			4 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人			0 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0 人			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	179.3%			200.0%			21.6%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

- ・長期派遣：オンラインを利用して、8名の学生が実施した。
- ・短、長期派遣を見据え、COIL型授業の充実やオンラインスタディツアーの提供を行い、米国学生と共同して活動することで日米学生同士の関係構築や、現地の生活様式について理解を深めた。

【特に優れた取組】

- ・COVID-19の影響により学生の派遣・受入プログラムのほとんどが中止せざるを得なかったなかで、COIL科目の充実とオンラインを活用することにより学生の米国提携大学での学びの機会を確保でき、ニューノーマルにふさわしい新たな国際交流の一つの形を提示することができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)	39人	43人	49人	54人	59人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	5人	5人	5人	5人	5人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	5人	5人	5人	5人	5人
	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	34人	38人	44人	49人	54人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	2人	5人	10人	15人	20人
	無	無	無	無	無
	32人	33人	34人	34人	34人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無

●海外相手大学追加調書分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)	39人	43人	49人	54人	59人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	5人	5人	5人	5人	5人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	5人	5人	5人	5人	5人
	無	無	無	無	無
	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	34人	38人	44人	49人	54人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	2人	5人	10人	15人	20人
	無	無	無	無	無
	32人	33人	34人	34人	34人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	有	有	有	有
COIL型教育の活用の有無	0人	0人	0人	0人	0人
	無	無	無	無	無

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	91 人	109 人			13 人			0 人			0 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		109人	0人	0人	0人	13人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	22人	0人	0人	0人	13人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	22人	人	人	0人	13人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	91人	87人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	1人	8人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	90人	79人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	233.3%	253.5%			26.5%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

- ・短期受入：就業体験科目を実施し、オンラインで13名の学生を受け入れた。
- ・2021年度に向けて、Language Exchange等の拡充を行い、交流人数の更なる増加への準備を行った。

【特に優れた取組】

- ・短、長期受入を見据え、COIL型授業、オンラインスタディツアー、Language Exchange、就業科目のオンライン化を通じ、日本の学生と交流する機会を創出し、米国学生の日本理解、日本語能力向上を促した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年6月	(日本人学生参加) Language Exchange	23 人
2020年6月	(米国人学生参加) Language Exchange	23 人
2021年2月、3月	(日本人学生参加) オンラインスタディツアー	21 人
2021年2月、3月	(米国学生参加) オンラインスタディツアー	107 人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	6	8	8	8
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	6	9	11	11	11
全授業科目数 (B)	2561	2561	2561	2561	2561
割合 (A/B)	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	38	50	55	55
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	27	54	72	72	72

(ii) 国内連携大学 【大学名：国際基督教大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	5	6	6	6
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	5	6	6	6
全授業科目数 (B)	1465	1465	1465	1465	1465
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	13	43	48	53	58
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	27	45	54	54	54

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	7	9		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	7	11	18		
全授業科目数 (B)	2289	2307	2529		
割合 (A/B)	0.3%	0.5%	0.7%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	16	132	197		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	29	254	251		

(ii) 国内連携大学 【大学名：国際基督教大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	7	8		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	2	8	8		
全授業科目数 (B)	1562	1572	1443		
割合 (A/B)	0.1%	0.5%	0.6%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	4	156	126		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	7	66	111		

(iii) 国内連携大学 【大学名：青山学院大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	4	4	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	4	4	4	4
全授業科目数 (B)	7020	7020	7020	7020	7020
割合 (A/B)	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	13	16	18	18	18
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	27	36	36	36	36

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	15	18	18	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	12	18	21	21	21
全授業科目数 (B)	11046	11046	11046	11046	11046
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	46	97	116	126	131
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	81	135	162	162	162

(iii) 国内協力大学 (参考値) 【大学名：青山学院大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	0	2		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	0	0	2		
全授業科目数 (B)	7601	8019	8090		
割合 (A/B)	0.0%	0.0%	0.0%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	0	0	20		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	0	0	1		

(iv) 事業全体の合計 (青山学院大学の参考値を含む)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	14	19	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	9	19	28	0	0
全授業科目数 (B)	11452	11898	12062	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.2%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	288	343	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	36	320	363	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
短期留学プログラム (COIL)	認定者数	4	4		4	4
	認定単位数	8	8		8	8
短期留学プログラム	認定者数	4	4		4	4
	認定単位数	8	8		8	8
中・長期留学プログラム	認定者数	6	6		6	6
	認定単位数	12	12		12	12
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		14	14		14	14
年度別認定単位数合計		28	28		28	28

2. 国内連携大学 【大学名：国際基督教大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中・長期留学プログラム(COIL)	認定者数	1	2		3	4
	認定単位数	2	4		6	10
中・長期留学プログラム	認定者数	14	17		20	23
	認定単位数	28	34		40	52
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		15	19		23	27
年度別認定単位数合計		30	38		46	54

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0	7	5	3	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
サンディエゴ州立大学 (短期留学プログラム) (中・長期留学プログラム)	認定者数	7	3		3	
	認定単位数	14	20		14	
カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 (短期留学プログラム (COIL))	認定者数	7	9			
	認定単位数	14	18			
カリフォルニア大学 アーバイン校 (短期留学プログラム (COIL))	認定者数		2			
	認定単位数		4			
カリフォルニア大学 リバーサイド校 (短期留学プログラム (COIL))	認定者数		1			
	認定単位数		2			
ニューヨーク州立大学 ストーニーブルック校 (中・長期留学プログラム)	認定者数		1		1	
	認定単位数		9		8	
オルバニー校 (短期留学プログラム) (中・長期留学プログラム)	認定者数		10			
	認定単位数		77			
年度別認定者数合計		14	26		4	0
年度別認定単位数合計		28	130		22	0

2. 国内連携大学 【大学名：国際基督教大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
カリフォルニア大学 (中・長期留学プログラム (COIL)) (中・長期留学プログラム)	認定者数	0	29		37	
	認定単位数	0	753.5		975	
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	29		37	0
年度別認定単位数合計		0	753.5		975	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	東京藝術大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -		
	【英文】	Japan-US Educational Initiative on Creating Games as a Comprehensive Artistic Practice		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	岡本 美津子	(所属・職名) 副学長(国際・ダイバーシティ推進担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	南カリフォルニア大学	University of Southern California	米国
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://games.geidai.ac.jp/				

1. 取組内容の進捗状況

<p>本事業における<u>2020年度</u>の取組内容について記入してください。</p>
<p>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</p>
<p>①交流プログラムの内容</p> <p>最新テクノロジーの積極的な導入に定評のある南カリフォルニア大学(USC)と、日本独自のアニメーションによる芸術表現に強みを持つ東京藝術大学の学生との間で、5チームの共同制作チームを構成し、長期間のゲーム制作プログラムを行った。事前に、USCとの共同制作に向けた準備コースとして、ゲーム制作現場で採用されているゲームエンジン(ゲームを動かす基幹システム)である「Unity」の講習会を本学学生向けに開講。加えて、USC教員を招いたオンラインワークショップ「ゲームというシステム」及び「コンセントリック型ゲーム開発」の2シリーズを実施。</p> <p>また、2020年5月にUSC GAMES EXPOに学生作品を出展した。9月にはオンラインにて前年度に実施できなかったゲームコース展「GEIDAI GAMES 01」を実施した(配信での参加者数は約1,200人)。2021年3月にはオンラインでの中間発表会と、成果発表としてゲームコース展「GEIDAI GAMES 02」をオンラインとリアル会場のハイブリッドで開催したところ、内外から高い評価を得た。特に配信での参加者数は約2,000人にのぼり、本事業に対する関心の高さが示された。交流プログラム全体を通して、日米の学生がお互いのバックグラウンドや価値観を理解しあいながら意思疎通し、制作を進めることで、多様な価値観を反映した作品作りを行うことができた。</p> <p>【特に優れた取組】</p> <p>緊密に連携をとり最新技術を生かしつつ、COIL型教育の活用によって、コロナ禍においても異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。成果発表会を重ねつつ、2020年度の集大成としてゲームコース展「GEIDAI GAMES 02」をオンライン/リアルのハイブリッドで開催し、オンライン配信参加者は約2,000人にのぼった。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>COIL型教育の実施にあたり、USCで実践してきたプロジェクトごとのマネジメント手法であるBurndown Chart(制作進行表)を導入した結果、各工程の重要度や計画と実際の進捗状況の乖離等を一目で把握できるようになり、効率的な事業の実施ができた。またスクウェア・エニックス社等先進的なゲーム制作会社のクリエイターを講師及びメンターとして招き、ゲーム産業の最前線の知見を吸収できるようにした。その他、講義をオンラインアーカイブ化し活用することでCOIL型教育を推進した。</p> <p>【特に優れた取組】</p> <p>両校が培ってきた国際共同制作や授業のノウハウを活用し、ゲームの共同制作を行っている。産業界のクリエイター(講師兼メンター)により実践的な視点での講義・助言を行っている。また講義内容をアーカイブ教材として蓄積し、COIL型教育のために活用している。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>プロジェクト専任教員1名、サポート教員1名、事務スタッフ1名を配置し、学生受入及び派遣の支援体制を整備した。日本人学生に対しては、英語を母国語とする教員及び日米バイリンガル教員が渡航前の英語指導している他、メンターを用意。外国人学生の受入については、実渡航ができない状況であるが、オンライン授業を活用しつつ、新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、USCとの密接な協議を続けている。</p> <p>【特に優れた取組】</p> <p>ネイティブ・バイリンガル教員の配置や外部メンター制度を導入し、実践的な指導体制を構築している。新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながらUSCとの密接な協議を続け、学生の派遣に際しての事前の英語指導や、受け入れ体制の整備等十分な準備を行っている。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>2020年5月にUSC GAMES EXPOに学生作品を出展した。9月にはオンラインにて、前年度に実施できなかったゲームコース展「GEIDAI GAMES 01」を実施(配信での参加者数は約1,200人)。2021年3月に成果発表として、ゲームコース展「GEIDAI GAMES 02」オンラインとリアルのハイブリッドで開催(配信での参加者数は約2,000人)。どの展覧会でも連携大学や産業界を交え、共同プロジェクト「東京藝大×USC共同制作」を発表し、会期中には作者によるトークセッションや、公開講習会や有名ゲーム実況者の解説映像配信を行った。</p> <p>【特に優れた取組】</p> <p>2021年3月のゲームコース展「GEIDAI GAMES 02」ではハイブリットによる成果発信を行い、内外から多くの参加者を得た。特にオンラインでの参加者数が約2,000人に上るなど、本事業への関心の高さが示された。産業界を交えた作品制作や、公開講習会には外部有識者(有名ゲーム実況者)を招き、客観性も担保している。</p>
<p>(2) 特記すべき成果</p> <p>COIL型教育の活用により、コロナ禍においても異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。両校の知見を活かしつつ、ゲーム制作現場で採用されているソフトウェアやツールなど最新技術を活用した授業、先進的なゲーム制作会社のクリエイターを講師およびメンターとして招き、最前線の知見を吸収できるよう工夫した授業等を行った。また、定期的に成果発表を重ね、ゲームコース展『GEIDAI GAMES 02』では、オンラインとリアルのハイブリットによる成果発信(配信の参加者数は約2,000人)を行い、積極的な成果普及に努めた。</p>
<p>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</p> <p>USCで長年実践されてきたBurndown Chart(制作進行表)を用いて、チームメンバーの役割、本プロジェクトに費やせる時間、制作における各工程の重要度等を明確化し、完成目標日までの制作進行予定を視覚的に把握した。これはCOIL型教育の特性に合致し、遠隔で日米共同のプロジェクトを着実に進行させるための重要な指標となった他、参加者の課題を見出す俯瞰的視点と経験値が大幅に向上した。</p>

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		6人	10人	10人	10人	10人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	6人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 6人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		6人	10人	10人	10人	10人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	5人	5人	5人	5人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	6人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 6人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	6 人	11人 人			6人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		11人	0人	0人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	6人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	6人	0人	0人	0人	2人	0人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	5人	0人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	5人	0人	0人	0人	3人	0人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	6人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	6人	0人	0人	0人	1人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	100.0%	110.0%			60.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

交流プログラム（派遣）においては、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、一時、双方大学の教育活動が停滞したこともあり、派遣10名の目標に対して、オンラインを活用し日本人学生6名の学生派遣となった（留学生は9名で、合計派遣者数は15名）。

特に今年度の交流プログラムにおいては、コロナ禍においても、完全オンラインでゲーム制作を遂行することができ、COIL型教育の特性を最大限に活用し、異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。

また、両校の知見を活かしつつ、ゲーム制作現場で採用されているソフトウェアやツールなど最新技術を活用した授業、加えて先進的なゲーム制作会社のクリエイターを講師およびメンターとして招き、産業の最前線の知見を吸収できるような教育体制を築くことができています。

さらに、定期的に成果発表を重ね、ゲームコース展『GEIDAI GAMES 02』（配信での参加者数は約2,000人）ではハイブリットによる成果発信を行い、積極的な成果普及に努めており、教育プログラムとして充実したパッケージを構築することができた。

こうした、これまでの積み重ねてきた実績を活かし、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しつつ、派遣事業を再開する。加えてゲーム専攻の設置を準備しており、独立した専攻となることで安定的に学生を確保できるよう目指している。

【特に優れた取組】

コロナ禍においても、完全オンラインでゲーム制作を遂行することができ、COIL型教育の特性を最大限に活用し、異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。教育プログラムとしては充実したパッケージを構築することができており、これまでの積み重ねてきた実績を活かし、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しつつ、派遣事業を再開する。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)		3人	10人	10人	10人	10人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	5人	5人	5人	5人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	5人	5人	5人	5人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		3人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)		3人	10人	10人	10人	10人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	5人	5人	5人	5人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	5人	5人	5人	5人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	5人	5人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		3人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	5 人	10人 人			7人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	10人	0人	0人	7人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	5人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	5人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	166.7%	100.0%			70.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

交流プログラム（受入）においては、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、一時、双方大学の教育活動が停滞したこともあり、受入10名の目標に対して、オンラインを活用し7名の学生受入となった。

特に今年度の交流プログラムにおいては、コロナ禍においても、完全オンラインでゲーム制作を遂行することができ、COIL型教育の特性を最大限に活用し、異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。

また、両校の知見を活かしつつ、ゲーム制作現場で採用されているソフトウェアやツールなど最新技術を活用した授業、加えて先進的なゲーム制作会社のクリエイターを講師およびメンターとして招き、産業の最前線の知見を吸収できるような教育体制を築くことができています。

さらに、定期的な成果発表を重ね、ゲームコース展『GEIDAI GAMES 02』（配信での参加者数は約2,000人）ではハイブリットによる成果発信を行い、積極的な成果普及に努めており、教育プログラムとして充実したパッケージを構築することができた。

こうした、これまでの積み重ねてきた実績を活かし、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しつつ、受入事業を再開する。

【特に優れた取組】

コロナ禍においても、完全オンラインでゲーム制作を遂行することができ、COIL型教育の特性を最大限に活用し、異文化交流に基づいた着実な教育効果をあげた。教育プログラムとしては充実したパッケージを構築することができており、これまでの積み重ねてきた実績を活かし、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しつつ、派遣事業を再開する。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年8月	国際共同演習（キャンパスアジア）*	9 人
2020年4月～3月	Art Study Abroad Program	8 人
2020年8月	パリュユニット/ロンドンユニット	13 人
		人

*本事業との重複参加者は5名。

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	13	15	17	20
全授業科目数 (B)	4714	4716	4716	4716	4716
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	6	10	10	10	10
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	3	10	10	10	10

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	8		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	11	12		
全授業科目数 (B)	4714	4903	4107		
割合 (A/B)	0.2%	0.2%	0.3%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	6	11	6		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	5	10	7		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	13	15	17	20
全授業科目数 (B)	4714	4716	4716	4716	4716
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	6	10	10	10	10
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	3	10	10	10	10

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	8	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	11	11	12	0	0
全授業科目数 (B)	4714	4903	4107	0	0
割合 (A/B)	0.2%	0.2%	0.3%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	6	11	6	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	5	10	7	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
南カリフォルニア 大学	認定者数	0	10	10	10	10
	認定単位数	0	20	20	20	20
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	10	10	10	10
年度別認定単位数合計		0	20	20	20	20

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	1	1	1	1				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
南カリフォルニア 大学	認定者数	0	10	5		
	認定単位数	0	20	10		
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	10	5	0	0
年度別認定単位数合計		0	20	10	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	鹿児島大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム		
	【英文】	US-Kagoshima-Asia Triad Program in Multi-Polar World		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	畝田谷 桂子	(所属・職名) グローバルセンター長	
	(交替年月日)	平成31年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1	ウィスコンシン大学ラクロス校	University of Wisconsin-La Crosse	米国
	2	ハワイ大学マノア校	University of Hawai'i at Mānoa	米国
	3	フィリピン大学ビサヤス校	University of the Philippines Visayas	フィリピン
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/triad/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における <u>2020年度</u> の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 対面交流が中止になる中で、教育研究フィールドとしての鹿児島島の魅力を海外連携校の学生に伝えることを目的に、鹿児島島を舞台にオンライン国際協働学習(COIL)に用いる動画教材を学生や教職員が作成し、これまで対面交流(派遣・受入プログラム)の事前事後学習に位置付けていたCOILの活用方法を見直し、COIL単体で学習成果を出すように取り組んだ。その結果、COIL科目数は、2019年度の10科目から2020年度は21科目へと拡大し、COILにおいて対面交流に匹敵する学習成果を上げるための手法や可能性が明らかになった。
【特に優れた取組】 2020年度事業の総括として、ヴァーチャルシンポジウム「COVID-19禍の世界」を海外連携校と開催した。国内外16大学・約180名が参加し、連携大学間の交流及び異分野コース間の連携を創出する機会となった。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 フィリピン大学ピサヤス校とハワイ大学マノア校を海外連携校に追加した他、海外連携校の湖南農業大学と農林水産学研究所がダブルディグリープログラム協定を締結した。また、高度共通教育科目「Kagoshima de SDGs」を開講し、海外連携校学生が受入時に履修登録して本学学生と共修する機会を設けた。本事業のプログラム協定締結状況は、ノースダコタ州立大学と農学部が現在、調印事務手続きを進めている他、渡航が可能になり次第、その他の協定未締結校との交渉を対面で実施し、全ての海外連携校との協定締結を加速させる。
【特に優れた取組】 海外連携校の湖南農業大学と農林水産学研究所とのダブルディグリープログラム協定は、本学における初めての協定であり、本事業から生まれた成果である。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 外国人留学生に、入国待機費用等の経済的支援制度を構築し、生活・学習相談サポートと併せて支援した。また、学生海外研修支援事業の公募要領選考基準を、双方向交流を行う研修を優先する仕組みに変更し、受入推進と共修促進を図った。さらに、オンライン海外研修支援制度を整備し、27名を支援した。引き続き、コロナ後もオンライン海外研修支援事業の財源を恒常的に確保し、その特性を活かして継続する。
【特に優れた取組】 実渡航が見込めない状況下、オンライン海外研修を海外連携校であるハワイ大学マノア校と開発し、3月に本学授業として実施した。また、迅速にオンライン海外研修に関する支援制度を創設し、海外連携校以外との研修も含め、参加学生に授業料の経済的支援を行った。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本事業のホームページに、ヴァーチャルシンポジウムの開催報告、本事業参加学生等による投稿ビデオ、外部評価報告書等を掲載する等、取組状況の積極的な発信と掲載内容を充実させた。また、事業内容を大学ホームページトピックスで即時発信した他、本事業の成果報告が本学紀要に2本、IEG刊行I-PAPER、国大協広報誌に掲載された。今後は、成果の発信をFDに進化して進める計画である。
【特に優れた取組】 本事業ホームページにヴァーチャルシンポジウム「COVID-19禍の世界」の講演、海外連携校と本学学生、教員による投稿ビデオの一部22本をアーカイブ化して一般公開した。海外連携校18校の学生が閲覧できることで、コースを越えた交流機会やCOILの議論シーズとして利用できる。
(2) 特記すべき成果
COIL単体で高い学習効果を出す工夫として、ナノバイオ・コースでは、本学と米国ノースダコタ州立大学と台湾国立成功大学の3つが連携して一流講師陣による講義23編からなる「科学・バイオテクノロジー上級講義」をオンライン上に開設し、受講学生がオンディマンドでの視聴とレポートの提出により、大学の枠を超えて指導を受けることを可能にした。また、コース別(分野別)に実施していた国際協働学習の成果を基に、複数コースが連携して多様なアプローチにより地域課題に取り組むための高度共通教育科目「Kagoshima de SDGs」を新規開設した。グローバルかつインターディシプリナリーな教育機会を提供し、専門分野の異なる学生や海外連携校の学生がオンライン受講できるように整えたことで、新しい価値の創出や地域課題解決に複数の視点とアプローチから取り組むことが可能になった。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインを活用して本事業の目的をいかに推進するか、学生のグローバルマインドをいかに養うかについて様々な工夫を凝らした。

まず事業目的1「鹿児島島の地の利(Location)を生かした魅力的な教育研究プログラムを開発し、米国およびアジアの連携大学から学生を受け入れる」を推進するために、対面の受入プログラムに代わるものとして、研究教育フィールドとしての鹿児島島の魅力的を伝えるCOIL教材を開発し、海外連携校に提供することとした。日本文化論コースでは、国内実習を実施し、本学の演習林で森林や林業の役割を学ぶとともに、近隣集落の人々にインタビューを行って動画を撮影し、鹿児島島の自然と人々、特に農村で活躍する人々をテーマに英語字幕をつけて編集した。ビデオは、SDGsの観点から農村の暮らしを議論する教材として今後タイと米国の学生と協働学習を行うために利用する。国内実習は、海外研修で重視してきたチーム・ビルディング、特に異なる意見を徹底的に議論する雰囲気作りが効果的で、かつ、海外の学生とのディスカッションを目的とするCOIL教材を学生自身が制作することで、自分たちの地域や文化がどのように見られるのか、何に興味をもってもらえるのか、どのように表現すれば、伝わりやすいのか等を考える機会となり、実際の交流プログラムの目的にかなり近づくことができた。島嶼へき地医療コースでは、島の医療体制が脆弱であることを考慮し、教員が撮影クルーとともに鹿児島県の島嶼部、黒島(三島村)を訪問し、島民や医療関係者にインタビューを実施してビデオを制作した。それを活用して学生にヴァーチャルなヘルスアセスメントの学習機会を与えるだけでなく、英語及び韓国語の字幕を入れ、米国と韓国の海外連携校へ提供したことで、協働学習を行うための準備を整えた。

次に、事業目的2「グローバルな視点から地域課題に挑戦し、新しい価値を創出する(Innovation)」については、これまで同じ分野の海外連携校の学生と本学学生が、特定の地域課題をテーマに国際協働学習を行ってきた。2020年度は、複数のコースが連携し、専門分野の異なる学生が協働学習を行い、地域課題に取り組む機会を整えた。全コースの教員が教授し、全学生が受講可能な科目として「Kagoshima de SDGs」I(Lecture)とII(Field Work)の2つを新規開設した。講義編は、海外連携校の学生もオンライン受講が可能となっており、実習編は、海外渡航が可能になり次第、実際に海外の学生を受け入れて本学の様々な分野の学生と協働学習を行う。これら科目においてグローバルかつインターディシプリナリーな教育機会を提供し、新しい価値の創出や地域課題の解決に取り組む。具体的には、SDGsをテーマに、リサイクル日本一の自治体として有名な鹿児島県大崎町でのフィールド実習及び黒島でのフィールド実習を通して、まずは学内での異分野協働学習を行い、その成果を国際協働学習へと展開する。

最後に事業目的3「米国と鹿児島とアジアの学生の国際協働(Collaboration)によって多極化時代にふさわしい秩序や共生の枠組みを構築する」に関しては、対面の派遣・受入を中心にCOILを事前事後学習に位置付けた国際協働学習のあり方を見直し、COIL単体で学習成果を出せるよう工夫を行った。ナノバイオ、環境建築デザイン、臨床獣医、日本文化論、島嶼へき地医療、食と安全、教育と移住、熱帯水産学をテーマに各コースが取り組んだ結果、オンラインでも想定以上の効果を得ることができた。例えば、ナノバイオでは、三大学の一流講師陣による講義23編からなる「科学・バイオテクノロジー上級講義」をオンライン上に開設し、受講学生はオンデマンドでの視聴とレポートの提出により、大学の枠を超えて指導を受けることが可能になった。対面式の協働学習とは異なり、参加学生にとって繰り返し視聴することで英語力の不足を補えるという利点があった。環境建築デザインは、「既存建築の再生を含む公共施設整備」をテーマに実施された鹿児島県の建築設計競技の実例を題材に、参加学生が作品を批評し、採点を行った。臨床獣医では、犬の心臓にペースメーカーを移植する事例をとりあげ、人間の治療との比較、飼い主の意識や経済的状況など病態生理に関する地域別の比較、ディスカッションを行った。島嶼へき地医療では、COVID-19の各国の対策について、公衆衛生の指導や出入国管理、PCR検査の方針、保健師の役割等を米韓日の三ヶ国で比較・検討するというタイムリーな協働学習を行うことができた。日本文化論では、経済と感染対策を両立させる際の問題点について議論を行った科目や、「日系アメリカ人の歴史」をテーマとする科目が実施された。これらの国際協働学習は、パンデミック感染症に苦しむ世界において、連携の重要性や共生の可能性を再確認する機会となった。また、異文化理解をテーマとする授業にCOILを活用した事例では、タイの学生とのコミュニケーションを通して、人種、民族、国家等への帰属をもとに他者へのステレオタイプなイメージが形成されていることを改めて意識し、様々な異なる個人として同年代の学生が関わり、互いを理解する試みとなった。熱帯水産学をテーマとするCOILは、全7科目が開講された。2015年から本学と複数の海外連携校との間で構築・運営してきた大学院国際協働教育プログラムILP(International Linkage Programme on Tropical Fisheries)を基盤に、渡航が不可能となる中で、一部の科目をオンライン開講に切り替えてプログラム運営を維持した成果である。

この他にも、COIL以外のオンラインによる国際教育には、海外の5大学と連携して本学学生向けの研修プログラム(Virtual Exchange Program)を7科目開講した。授業外の活動としては、英語力強化コース(Intensive English Course)をオンライン開講し、高い成果を上げることができた。オンラインにしたことで、異なるキャンパスの学生も参加できるようになり、2年次以降も継続的に取り組むことが可能になった。TOEFL模擬試験(オンライン)では、能力の伸びを客観的、定期的に確認する機会を設けたことで学習の動機付けに寄与した。WHO西太平洋地域事務局/事務局長室管理官を講師に迎え、「COVID-19禍の世界」をテーマに開催したヴァーチャルシンポジウムでは、国内外から約180名が参加し、オンラインの特性を活かし、ウェブ上での発表やコメントの場を設定したことで、海外連携校の教員や学生が意見を交わし、各国の現状や問題点を多角的に学ぶことができた。時差の関係で米国の連携大学からの参加は見込めなかったが、アジアの連携大学から多数の参加があり、参加者数では、従来の対面のシンポジウムを凌ぎ、大成功を収めることができた。また、本事業の担当教員が参加したパネルディスカッションでは、各コースのコロナ禍の活動を紹介し、オンライン化の工夫や問題点を共有したことで、異なるコース間の連携強化、事業の推進に大きな意義があった。本事業では、これまで渡航による学生交流を活動の中心に置いてきたが、実際の移動がなくなり、交流がオンライン化することで、経済的コストが軽減された。教員にとっては、授業全てがオンライン化されたことで、海外連携校と協働で行うCOIL実施のハードルが下がった。しかしながら、大学全体で推進するには、改めて何がCOILで、何がCOILではないのかという問題を明確にする必要があることがわかった。本学では、1)海外連携校との間で授業の目的、内容、学習成果に関する合意があること、2)同期型、オンデマンド型のいずれも構わないが、両大学の学生が参加していること、3)COILの実施において両大学からリソースやエフォートが提供されていること、4)授業料等が相互に免除されていること、の4点を目安とすることとし、今後、FDを行うこととした。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		8人	118人	113人	122人	106人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	89人	84人	91人	85人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	54人	49人	56人	50人
	無	0人	35人	35人	35人	35人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	13人	13人	15人	15人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	6人	6人	6人	6人
	無	0人	7人	7人	9人	9人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	8人	16人	16人	16人	6人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	16人	16人	16人	6人
	無	8人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	4人	4人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	4人	4人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	4人	4人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		8人	118人	113人	126人	110人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	89人	84人	91人	85人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	54人	49人	56人	50人
	無	0人	35人	35人	35人	35人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	13人	13人	19人	19人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	6人	6人	6人	6人
	無	0人	7人	7人	13人	13人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	8人	16人	16人	16人	6人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	16人	16人	16人	6人
	無	8人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	31 人	131人 人			276人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		131人	0人	0人	0人	276人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	23人	126人	0人	0人	0人	118人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	0人	71人	0人	0人	0人	87人	0人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	23人	55人	0人	0人	0人	31人	0人	人	人	人	人	
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3人	2人	0人	0人	0人	158人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	158人	0人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	3人	2人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	5人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	5人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	0人	3人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	387.5%	111.0%			244.2%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

コロナ禍で海外派遣が全面停止し、オンライン交流（COIL型教育）に力を入れた。これまで実渡航の事前・事後学習として位置付けていたCOILを見直し、COIL単体で学習成果を出せるよう工夫を行った。実渡航の代替として実施したCOIL科目は、全部で21科目、1.獣医学特別研修(米国ジョージア大学、台湾中興大学)、2.留学生のための異文化理解(泰国プーラーパー大学)、3.海外研修基礎コースinカリフォルニア(米国サンノゼ州立大学)、4.社会システム・政策研究(泰国プーラーパー大学)、5.鹿児島から見た台湾の歴史と地域を学ぶ(台湾成功大学)、6.国際看護学(米国ベレアカレッジ、韓国中央大学)、7.多言語文化論演習1(米国ウィスコンシン大学)、8.英語圏比較文化論(米国サンノゼ州立大学)、9.アメリカ文学演習(米国サンノゼ州立大学)、10.Advanced Lectures on Chemistry and Biotechnology(台湾成功大学)、11.建築特別演習II(米国ディヨネゴロ大学)、12.Advanced Fishing Technology(比国フィリピン大学)、13.Coastal Resource Assessment and Management(比国フィリピン大学)、14. Fisheries Ecology(比国フィリピン大学)、15.Special Topics(比国フィリピン大学)、16.Aquatic Biology(比国フィリピン大学)、17.Aquatic Bioresource Science and Technology(比国フィリピン大学)、18. Aquaculture(比国フィリピン大学)、19.海外インターンシップ(米国サンノゼ州立大学)、20.法文学部演習(中国湖南農業大学)、21. Food Plant Management and Sanitation(泰国メーファールアン大学)が開講された。この結果、本学から245人(目標値133人)の学生がCOILに参加し、目標値(派遣)を大幅に上回り、多くの学生に国際教育機会を与えることができた。オンラインによる交流は、工夫次第で様々な可能性があることを、今回の挑戦を通して教員・学生ともに体感することとなった一方で、学習成果の点で実渡航には及ばない部分も改めて認識されることとなった。

今回、全学でオンライン交流に取り組んだ結果、COIL科目が増えた一方で、改めて何がCOILで、何がCOILではないのかという基準を明確にする必要があることが明らかになった。その理由は、個々の教員が自身のネットワークを活用して国際交流を行った結果、海外大学の教員が提供する授業やコースを受講するもの(相手側の学生の参加がない)や、シンポジウム交流をオンラインで行うもの(授業として単位化されていない)、受講料の支払いが必要なもの(大学間連携にもとづいていない)など、本来の目的である「グローバルな視点やコンピテンシーの育成」という意味では、COIL同様に重要な価値がある、様々な形態のヴァーチャル・エクスチェンジ(VE)が実施されたためである。今後、本学では、1)連携大学との間で授業の目的、内容、学習成果に関する合意があること、2)同期型、オンデマンド型のいずれも構わないが、両大学の学生が参加していること、3)COILの実施において両大学からリソースやエフォートが提供されていること、4)授業料等が相互に免除されていることの4点を目安とし、COIL型科目のシラバス作成、モジュール作成についてのFDを実施するなど全学に向けてCOILの推進を行う他、それ以外の交流形態についても柔軟に対応し、国際教育を推進していく。

最後に2020年度は、本学全体の国際教育を見直し、学生海外派遣事業の制度改正にも取り組んだ。これまで本学の国際教育プログラムは、海外への派遣を中心に動かしてきたが、本事業で魅力的な受入プログラムを開発し、COILを導入して双方向交流を実施する形を整えることができたため、全学のグローバル人材育成プログラム(P-SEG)自体を、2021年度からP-SEG Interactiveへと発展させ、全学で双方向交流に取り組む体制を構築した。2020年度末には、プログラム全容を紹介する冊子「セカイをかえよう P-SEG Interactive」を発行し、コロナ禍においても学生が世界に目を向けて高い学習意欲を保つことができよう情報提供を行った。

【特に優れた取組】

熱帯水産学をテーマとするCOILは、全7科目を開講することができた。一つの研究科から多数の科目を提供できた基盤として、2015年から本学と複数の海外連携校との間で構築・運営してきた大学院国際協働教育プログラムILPがあり、海外渡航が不可能となる中で、一部の科目をオンライン開講に切り替えて実施した成果といえる。ILPは現在6カ国7大学の水産系の研究科が連携して運営しており、全87科目が開講され、修士2年のうち一定期間に連携大学を訪問し、現地学生と共に授業に参加し、調査研究を行う対面での協働学習を基本として設計されている。しかし、一人が訪問できる大学数には時間や費用の点で制限があり、受講可能な科目も限られるという現状があった。今回、一部をオンライン化したことで受講可能な科目数も増える等、利点が明らかとなったことから、今後、渡航が可能になった後も、個々の科目の学習目的や内容に照らしてオンライン導入の可否を検討し、コースの充実を図る。これまで別々の枠組みで実施してきた対面の国際協働学習(ILP)と本事業でのCOILがコロナ禍で重なりあったわけだが、COILを国際協働学習の一つの手法と捉え、その目的は国際協働学習を質量ともに拡大すること、そのために母体となる国際連携ネットワークを構築することにあるとするなら、2015年から築いてきたILPの教育枠組は、本学の中でも実績のある、特に優れた取り組みとして位置づけられる。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計3）		44人	72人	80人	80人	84人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		14人	40人	48人	46人	57人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	14人	40人	48人	46人	57人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		9人	12人	12人	14人	17人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	3人	3人	3人	6人
	無	9人	9人	9人	11人	11人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		21人	20人	20人	20人	10人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	20人	20人	20人	10人
	無	21人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0人	0人	0人	4人	4人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	4人	4人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	4人	4人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3+4）		44人	72人	80人	84人	88人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		14人	40人	48人	46人	57人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	14人	40人	48人	46人	57人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		9人	12人	12人	18人	21人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	3人	3人	3人	6人
	無	9人	9人	9人	15人	15人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		21人	20人	20人	20人	10人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	20人	20人	20人	10人
	無	21人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	44 人	82人 人			298人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		82人	0人	0人	0人	298人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

【交流形態別 内訳】

単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	63人	0人	0人	0人	109人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用有無	有	0人	63人	0人	0人	0人	109人	0人	人	人	人	人	人
	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	9人	13人	0人	0人	0人	157人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用有無	有	0人	0人	0人	0人	0人	157人	0人	人	人	人	人	人
	無	9人	13人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	35人	3人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用有無	有	18人	0人	0人	0人	4人	0人	人	人	人	人	人	人
	無	17人	3人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	3人	0人	0人	0人	28人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用有無	有	0人	0人	0人	0人	28人	0人	人	人	人	人	人	人
	無	0人	3人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (D/C)	100.0%	113.9%			372.5%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2020年度は、海外連携校から短期研修と交換留学のいずれにおいても、対面では、外国人学生を受け入れることができなかった。しかし、本学と海外連携大学との間で実施したCOILの取り組みには、目標値を119名上回る海外連携大学の学生が参加した。受入プログラムが中止になる中で、COIL科目をそれに代替するものになるよう、鹿児島県の魅力を海外学生にいかにつたえるかが課題であった。第一の工夫として、鹿児島地域のビデオを撮影してCOIL教材として用いることを企画した。日本文化論コースでは、国内フィールド実習を実施し、本学の演習林で森林や林業の役割を学ぶとともに、近隣集落の人々にインタビューを行い、それを基に鹿児島島の自然と人々、特に農村で暮らしの魅力を伝える動画を編集した。ビデオは、SDGsの観点から鹿児島島の農村の暮らしを議論する教材として今後タイと米国の学生と協働学習を行うために利用する。海外連携校の学生とディスカッションするためのCOIL教材を学生自身が制作することで、本学学生には自らの地域や文化が外からどのように見られるのか、何に興味をもってもらえるのか、どのように表現すれば、伝わりやすいのか等を考える機会となり、海外連携校学生にとっては、今後の協働学習を深めるための有効なシーズとなった。島嶼へき地医療コースでは、島の医療体制が脆弱であることを考慮し、学生の現地実習は難しいと判断せざるを得なかった。しかし、教員が撮影クルーとともに鹿児島県の島嶼部、黒島（三島村）を訪問し、島民や医療関係者にインタビューを実施して制作したビデオを通して、本学学生は、ヴァーチャルなヘルスアセスメントの学習機会を得ることができた。さらに、そのビデオに英語及び韓国語の字幕を入れ、米国と韓国の海外連携校へ教材として提供し、連携校教員から高い評価を得た。第二の工夫として、これまでは国際協働学習により地域の課題に挑戦するという取り組みに注力してきたが、さらに発展させて異分野連携で本事業を推進する体制を整えた。様々な地域課題を解決するには、グローバルな視点だけでなく、インターディシプリナリな視点やアプローチが必要となるためである。様々な分野の教員が教授し、全学生が受講可能な新規科目「Kagoshima de SDGs」を開設し、海外連携校の学生もオンラインで参加できるようにした。この科目の設置により、実際に海外から学生を受け入れ、調査実習を合同で行うことができるだけでなく、本学学生が異分野連携で取り組んだ実習の成果をCOIL教材の開発に用いることができ、海外渡航の有無にうまく順応して、協働学習を推進していくことが可能になった。

次に、本学への留学を予定していた未入国学生に対して、学部・大学院正規生や非正規生に対応した他、本事業の海外連携校ではないが、学術交流協定校からの学生4名を法文学部で受け入れ、オンライン授業へ参加させ、本学学生との協働学習の機会を提供した。コロナ禍においても、海外協定校の学生に留学の機会を与えることができたという事実は、高く評価される。また、日本語・日本文化についてのオンライン学習教材の作成にも取り組んだことで、今後、受入プログラムをオンラインと対面の両方を視野に入れて、柔軟に実施できるようになった。

最後に、海外連携校から受け入れる外国人留学生のインターンシップについて、渡航可能になった場合に備えた準備活動を行った。学内既存のインターンシップ制度に、海外連携校から受け入れる日本語レベルが比較的高い外国人留学生が参加する許諾を得たことが成果として挙げられる。

【特に優れた取組】

本事業終了後の事業発展構想では、本事業の「米国・アジア・鹿児島」の三極連携の枠組みを超えて、連携校を世界に拡大する計画である。その一早い動きとして、本事業の環境建築デザインコースを担当する教員が、本年度エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリーにパートナー校として参加し、バリ第一大学（仏）、パドヴァ大学（伊）、エヴォラ大学（葡）と連携して2022年度冬学期から留学生を受け入れる協定の締結が進んでいる。当該教員の担当するコースは、鹿児島島の地理的特性「熱帯/亜熱帯における風土建築の相互理解と応用」を課題としており、鹿児島島の地域特性を活かした専門分野の教育交流を欧州に拡大する好機となり、今後の展開に期待が持てる。加えて、本年度から国際交流教育の成果の検証ツールとして、BEVI(Beliefs, Events, and Values Inventory)の試用を開始した。海外連携校学生では、日本文化論コースのブーラー大学生22名（本学学生23名）がCOILの前後に回答し、ブーラー大学生は、国際性に特に関連するSocioemotional Convergence, Sociocultural Opennessが向上したという結果が得られた。Global Resonance（世界との共鳴）は、回答者を非認知能力全体によって分けた上位、中位、下位グループのうち、下位と中位グループでは向上したが、上位グループでは若干下降が見られた。この結果をブーラー大学に還元し、担当教員間でPDCAの共通指標とすることで、COILへの取組意識が高まった。この他、島嶼へき地医療コースの本学学生92名も回答しており、今後適切に教育の検証に用いていきたい。

(3) その他(上記(1)・(2)に該当するもの以外)

- 本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム
 ○「本事業の海外連携校とのCOIL」以外の取り組み(参加者数は、本学学生と海外大学の合計人数)

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年3月	法文学部・文化人類学実習Ⅰ&Ⅱ(全北大学)	29 人
2020年10月－ 2021年3月	農林水産学研究科・水生生物学(ニャチャン大学・トレンガヌ大学)	10 人
2020年10月－ 2021年3月	農林水産学研究科・水生生物資源科学と技術 (ニャチャン大学・トレンガヌ大学)	7 人
2020年10月－ 2021年3月	農林水産学研究科・水圏文化(ニャチャン大学・トレンガヌ大学)	8 人
2021年3月	共通教育・鹿児島から見た台湾の歴史と地域を学ぶ(中央大学)	50 人
2020年9月－ 2020年10月	農学部・海外研修(ポゴール農科大学)	16 人
2021年1月	農学部・国際森林論(ロッテンブルグ林業大学)	5 人
2020年10月－ 2021年3月	水産学部・海外研修/実用英語(フィリピン大学ピサヤス校他)	19 人
2021年2月－ 2021年3月	法文学部・海外異文化体験実習 カナダの法と社会(ビクトリア大学)	15 人
2021年2月－ 2021年3月	共通教育・Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs (ハワイ大学マノア校)	16 人
2021年2月－ 2021年3月	共通教育・Confronting Kagoshima Regional Issues (ハワイ大学マノア校)	1 人
2020年8月－ 2020年9月	大学院共通・理工系国際コミュニケーション特別研修 (西オーストラリア大学)	11 人

- 実渡航で入国できない外国人留学生への対応(オンラインによる受入)

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年4月－ 2020年12月	正規生に対するオンライン教育	26 人
2020年4月－ 2020年12月	交換留学生に対するオンライン教育	4 人
2020年4月－ 2020年12月	研究生に対するオンライン教育	11 人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：鹿児島大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	1				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	9	14	16	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数(A)	6	9	14	16	18
全授業科目数(B)	5882	5882	5882	5882	5882
割合(A/B)	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生)	98	108	133	138	154
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生)	138	152	179	189	197

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数(A)					
全授業科目数(B)					
割合(A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：鹿児島大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	10	21		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数(A)	3	12	22		
全授業科目数(B)	5882	5077	5378		
割合(A/B)	0.1%	0.2%	0.4%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生)	120	167	245		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生)	137	207	298		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数(A)					
全授業科目数(B)					
割合(A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	1				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	9	14	16	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	6	9	14	16	18
全授業科目数 (B)	5882	5882	5882	5882	5882
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	98	108	133	138	154
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	138	152	179	189	197

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	10	21	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	12	22	0	0
全授業科目数 (B)	5882	5077	5378	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.4%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	120	167	245	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	137	207	298	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	9	5	10	6	10	7	11	9	12

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：鹿児島大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		認定者数	1	0	2	2
ジョージア大学	認定単位数	8	0	16	16	16
ノースダコタ州立大学	認定者数	0	1	2	1	2
	認定単位数	0	8	16	8	16
サンノゼ州立大学	認定者数	2	2	2	2	2
	認定単位数	16	16	16	16	16
オクラホマ州立大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
タスキーギ大学	認定者数	0	0	0	1	1
	認定単位数	0	0	0	8	8
テキサスA&M大学	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	8
ベレアカレッジ	認定者数	0	1	2	2	2
	認定単位数	0	8	16	16	16
ディポネゴロ大学	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	8
中央大学校	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
湖南農業大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
国立成功大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	2	5	1	6	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：鹿児島大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		認定者数	0	1	0	
ジョージア大学	認定単位数	0	2	0		
ノースダコタ州立大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
サンノゼ州立大学	認定者数	1	0	0		
	認定単位数	14	0	0		
オクラホマ州立大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
タスキーギ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
テキサスA&M大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ベレアカレッジ	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ディポネゴロ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
中央大学校	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
湖南農業大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
国立成功大学	認定者数	1	0	0		
	認定単位数	8	0	0		

国立中興大学	認定者数	1	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
メーファールアン大 学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
チェンマイ大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
ブーラパー大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		4	6	10	10	13
年度別認定単位数合計		24	48	80	80	104

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

国立中興大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
メーファールアン大 学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
チェンマイ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ブーラパー大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		2	1	0	0	0
年度別認定単位数合計		22	2	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	琉球大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	「COIL型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」		
	【英文】	Developing Global Leaders in the Pacific Island Region for its Sustainable Development via COIL Technology		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	牛窪 潔	(所属・職名) 理事、副学長（地域貢献・国際交流・広報担当）	
	(交替年月日)	令和3年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2021年3月に短期の派遣と受入を組み合わせた「太平洋島嶼地域課題プログラム」をオンラインで実施した。プログラムには海外連携大学4校の教員や国連大学の研究員、本学教員4名が講義を提供し、太平洋島嶼地域の共通課題解決に取り組むSDGs及びリーダーシップについての国際共修が行われた。海外連携大学から7名、本学学生8名がディスカッションや最終グループ発表などを通じて協働で学び、ルーブリックによる学修成果評価を実施したのち、参加学生全員が2単位を取得した。長期プログラムは新型コロナウイルス感染症による渡航制限の影響を受け今年度は実施を見送ったが、今後の感染状況が改善されれば、渡航を伴う派遣再開を予定している。

【特に優れた取組】

同一プログラム内で海外連携校と本学の学生が協働学修を行い、連携大学から教員の講義提供や学修評価への参加もあった。またBEVIによる分析を行い、受入と派遣双方の学生のベースラインと与えた影響の度合いについてそれぞれ明確にした。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

2020年3月に外部評価委員会（南山大学を含む5団体・機関）を設置し、12月に第1回外部評価委員会を実施した。委員会から指摘があった事業内容に関する課題や評価を運営委員会で共有し、改善に向けて検討を行なった。また愛知学長懇話会のメンバーとの意見交換に本学でCOIL型教育を牽引する教員が参加し、質保証における国内大学との連携拡充を図った。今後、国際化促進フォーラムにおいて連携大学となる札幌学院大学と南山大学とは、授業のコンテンツの共同開発について協議を行っている。海外連携大学の担当者とは定期的に情報共有を図り、COIL型教育での連携およびルーブリックを用いた評価方法等の点検を行う予定である。

【特に優れた取組】

2021年3月に実施した学生交流オンラインプログラム（短期派遣・短期受入）において、海外連携大学4校の教員及び国連大学の研究員が講義を提供し、最終課題では本学教員によるルーブリックを活用した学修成果の評価が行われた。国際共修科目において国内外大学による協力体制を敷いた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

留学生の受入について、オンラインでの講義の充実を図った。また、派遣予定であった日本人学生に対しては、事前研修としてBEVIの受検、実務家講師による講義や安全危機管理の講義を受講させた。

【特に優れた取組】

BEVIの受検や関連講義を受講させることにより、留学に対する教育効果を高めることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本学教員向けにCOIL導入ガイドを作成し、世界展開力強化事業の紹介やCOIL型教育のための教員マッチングサポート、またオンライン型教育におけるICTツールの使い方をまとめた冊子を9月に全教員に配布した。COIL型教育の実践例を隔月発行のCOILニューズレターに日英両言語でまとめ、随時国内外の連携大学に紹介している。さらに12月実施の中間成果報告シンポジウムでは、学生交流プログラム既参加学生によるビデオレターや報告会で学外ゲストに学修成果を発表した。取組内容については随時、大学のHPやSNS上で情報を公開し、事業成果の普及を行なった。

【特に優れた取組】

学生交流プログラムおよびCOIL型教育の実践例を、随時大学のHP、SNS、ニューズレターを通じて、また教員による論文発表や学会発表等で発信してきた。また外部評価委員に向けても、これまでの事業取組内容を紹介する「事業報告書（2018~2019年度）」を独自に作成し進捗状況および成果報告を行なった。

(2) 特記すべき成果

渡航を伴う長期の学生交流が中止になる中、短期プログラムではオンラインプログラムの導入により、新たな展開が見出せた。海外連携大学の学生（受入）と本学学生（派遣）を同一プログラムの中で同時開催したことにより、COIL型教育手法を用いた国際共修を伴うプログラムを開発し、またルーブリックを共有することで連携大学の教員も学修評価に参加できるシステムを構築できた。コンテンツに関しても、本学と連携大学の教員が協働で作成し、多様な事例や観点からディスカッションが行われるなど学修内容に深みが出た。さらに同プログラムの同期型オンライン講義を国内大学の聴講希望教員にも公開し、COIL型教育および国際共修プログラムの横展開を図った。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

2021年3月(3/4-3/20)に実施した「太平洋島嶼地域課題プログラム」("Global Leadership for Island SDGs")では、Zoomでオンライン同期型の講義を提供し、Google Driveでコンテンツの共有化・同期化を図り、またGoogle Formsを用いたルーブリックを用いた学修評価方法を教員間で共有・実施するなど、オンライン上で派遣と受入プログラムを同時に実施した。2020年12月の中間成果報告シンポジウムでは、オンラインと対面の両方で国際共修ワークショップを実施したことにより、連携大学留学生と本学学生の協働学習が可能となり、その様子をZoomで国内外に配信することができた。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		5人	10人	12人	15人	18人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		3人	5人	6人	8人	9人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	5人	6人	8人	9人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		2人	5人	6人	7人	9人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	2人	5人	6人	7人	9人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		5人	10人	12人	15人	18人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		3人	5人	6人	8人	9人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	5人	6人	8人	9人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		2人	5人	6人	7人	9人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	2人	5人	6人	7人	9人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	7 人	27人 人			8人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		27人	0人	0人	0人	8人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	6人	23人	0人	0人	0人	8人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	6人	23人	0人	0人	0人	8人	0人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	1人	4人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	140.0%	270.0%			66.7%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2020年度の日本人学生派遣に関する実績は、目標12人（長期6名、短期6名）に対して、実績は長期0、短期8名の合計8名であり、実績の割合は66.7%にとどまった。短期の交流プログラム（派遣）は、本学において全てオンラインによるプログラムを実施したことにより、達成目標を達成することができた。長期の学生交流プログラム（派遣）は、2020年度の渡航を見込んだ参加希望学生がハワイ大学マノア校1名、ヒロ校1名、カウアイコミュニティカレッジ2名、グアム大学2名いたものの、外務省の海外渡航レベルが不要不急の渡航を止めるよう求める感染症危険情報レベル2が発出され、また海外の連携大学のある地域でもロックダウンが続く学生交流プログラムの中止が続いたため、本学学生の渡航を中止した。

2021年度は、国内の新型コロナワクチン接種も進んでいる状況から、長期留学を予定している学生を優先に自治体や大学を通して接種の機会を提供することを予定している。2022年1月から始まる連携大学の春学期に合わせて留学希望者に対するガイダンスを進めており、長期派遣プログラムの学生の回復を目指しているが、相手大学との交換留学生の人数調整もあり、今年度の長期派遣については、まだ不透明な状況である。短期派遣プログラムに関しては、今年度も引き続きオンライン（本学夏休み期間中）と対面（2、3月）の両面で実施し、2021年度の目標人数（短期7名）を上回る人数の達成を目指している。

【特に優れた取組】

短期の派遣プログラムではオンラインの特質を活かしたバーチャルな国際共修機会を派遣学生と受入学生双方に提供した。全て英語で行われた同プログラムでは、講義中にディスカッションの機会を多く設け、最終課題でのグループ発表も外国人学生と日本人学生の混合チームで行い、協働学修に対する意識を涵養した。またBEVIを実施し学修効果に関する分析も行なった。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)		5人	9人	11人	11人	11人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	3人	4人	4人	4人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	3人	4人	4人	4人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		5人	6人	7人	7人	7人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	6人	7人	7人	7人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)		5人	9人	11人	11人	11人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	3人	4人	4人	4人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	3人	4人	4人	4人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		5人	6人	7人	7人	7人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	6人	7人	7人	7人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	6 人	7人 人			7人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		6人	1人	0人	0人	0人	7人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	1人	0人	0人	7人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	1人	0人	0人	7人	0人	人	人	人	人	人
	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	6人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (D/C)	120.0%	77.8%			63.6%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2020年度の外国人学生受入に関する実績は、目標人数11名（長期7名、短期4名）に対し、実績は長期0名、短期7名（オンライン）の合計7名、達成目標に対する実績の割合は63.6%であった。短期の交流プログラム（受入）は、同派遣プログラムと同時に全てオンラインでプログラムを実施し、目標人数を上回る人数を達成することができた。一方、長期の受入プログラムは、2020年度は入学予定学生がハワイ大学ヒロ校1名、ハワイ大学マノア校1名、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ2名、パラオ地域短期大学2名が予定されていたものの、新型コロナウイルス感染症による外務省の渡航制限及び連携大学の学生交流派遣プログラムの中止により、受入交流人数は0となった。また、代替プログラムとして、オンラインによる短期留学プログラムを提供したが、連携大学学生の受講がなかったため、交流人数0となった。ただし、他の国・地域からすでに対面で受け入れていた外国人学生及びオンラインで聴講する学生に対しての講義提供は継続している。

2021年度の前半も同様の傾向が続き、10月入学を予定しているのはハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ3名、パラオ地域短期大学1名である。しかし国内のワクチン接種状況を鑑み、連携大学側が渡航を制限していることもあるため、今年度も渡航を伴う受入交流は厳しい現状ではあるが、海外連携大学にとって本学が魅力的な留学先となるよう、連携大学との連携を、広報活動等を通してより一層図り、外国人学生を受け入れるための環境やサポート体制の強化に努める。加えて、2020年度にオンラインで短期受入プログラムに参加した連携大学の学生のネットワークを活用するなど、今後の展開につなげる。

【特に優れた取組】

日本人派遣と同様外国人学生の受入に関しても、オンラインで講義や国際共修機会を提供し、短期プログラムのみではあるが本事業の目的に沿ったコンテンツを連携大学の教員と協働で開発し、ルーブリックを用いた評価を行った。また県内の高校生ともオンライン上での文化交流機会を提供し、伝統文化の紹介を通して留学先としての沖縄と本学をアピールできた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021/3/1	太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム	15 人
		人
		人
		人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：琉球大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	44	44	45	46
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	16	54	54	55	56
全授業科目数 (B)	11000	11000	11000	11000	11000
割合 (A/B)	0.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	160	640	640	655	665
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	50	190	190	195	200

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：琉球大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	12	46	57		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	17	54	73		
全授業科目数 (B)	4364	6269	6373		
割合 (A/B)	0.4%	0.9%	1.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	152	702	800		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	114	257	474		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	44	44	45	46
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	16	54	54	55	56
全授業科目数 (B)	11000	11000	11000	11000	11000
割合 (A/B)	0.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	160	640	640	655	665
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	50	190	190	195	200

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	12	46	57	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	17	54	73	0	0
全授業科目数 (B)	4364	6269	6373	0	0
割合 (A/B)	0.4%	0.9%	1.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	152	702	800	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	114	257	474	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	8	8	13	13	13	13	13	13	13	13

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	5	3	5	0	3				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ハワイ大学9校（マノア校、ヒロ校、マウイカレッジ、カウアイコミュニティカレッジ、ハワイコミュニティカレッジ、ホノルルコミュニティカレッジ、カピオラニコミュニティカレッジ、リワードコミュニティカレッジ、ウィンドワードコミュニティカレッジ）、グアム大学、パラオ地域短期大学、ミクロネシア連邦短期大学、マーシャル諸島短期大学（短期型プログラム：3単位、長期型プログラム：8単位）	認定者数	5	10	12	15	18
	認定単位数	25	55	66	80	99
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	10	12	15	18
年度別認定単位数合計		25	55	66	80	99

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ハワイ大学ヒロ校	認定者数		1			
	認定単位数		27			
ハワイ大学マウイカレッジ	認定者数		2			
	認定単位数		40			
ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ	認定者数	1				
	認定単位数	27				
グアム大学	認定者数		1			
	認定単位数		21			
年度別認定者数合計		1	4	0	0	0
年度別認定単位数合計		27	88	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	大阪市立大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム		
	【英文】	Program to Develop Collaborative Japan-US Social Innovators		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	鈴木 洋太郎	(所属・職名) 副学長	
	(交替年月日)	2020/4/1		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://www.coil.osaka-cu.ac.jp/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 2回の短期集中研修Socially Innovative Global Classroom(以下SIGLOC)をオンラインで実施、多様な地域から参加があった。多国籍学生のグループワーク中心の学修で社会課題の発見・解決策の提案に取り組み、参加者による事後評価ではいずれも高評価が得られた。 第6回SIGLOC-online 2020年8月31日～9月11日 [Net Promoter Score(NPS)=65.4] テーマ「COVID-19から見えてきた社会課題に対するユニバーサルな解決策を模索する」 参加人数：24 [ザンビア大学7, ヘリオットワット大学マレーシア校5, サンクトペテルブルク州立大学3, ティラーズ大学3, マレーシア工科大学2, 大阪市立大学2, ヘリオットワット大学(英国)1, マカオ工科大学1] *提携校アンドリュース大学(AU)、デラサール大学(DLSU)とスケジュールが合わず世界から募集 第7回SIGLOC-online 2021年3月12日～3月24日 [NPS=60.7] テーマ「地球温暖化における時速可能な社会の実現性を探る」 参加人数：30 [クワメ・ンクルマ大学9, サンクトペテルブルク州立大学6, デラサール大学6, アンドリュース大学3, 大阪市立大学3, 大阪府立大学1, ザンビア大学1, ヘリオットワット大学マレーシア校1] *本学及び大阪府立大学から計4名参加(うち1名は外国籍) *AU(3名)、DLSU(6名)の学生は各大学の単位認定科目(授業)として参加 【特に優れた取組】 提携校以外の大学に案内を出したところ広範な地域からの参加があった。非同期型COILを主体にプログラム内容と学修形態を精査し、参加者同士の交流企画も実施した。多様なオンラインツールを取り入れて学修プラットフォームを整備し、大人数への対応を見据えた効率的な運営を追求した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 2021年度開始の留学生受入・派遣プログラムが完成し、本学及び提携校で募集を行った。COIL型授業拡充のため米国を中心に連携先の開拓に注力し、複数大学の教員と協働授業の内容や開講時期について具体的に協議した。SIGLOC参加者の所属大学には研修後に報告書を送付し成果を共有した。 【特に優れた取組】 COIL授業の拡大に向けて、米国その他の地域の大学教員と協議を重ね、2021年度には新たに5科目7クラスでのCOIL授業の開講が決定した。SIGLOC-onlineに参加する常連校がでてきた。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 提携校アンドリュース大学と交換留学に関する協議を重ね、ソーシャルイノベーション(SI)コースの留学生受入コースの募集要領・提供科目について合意し、MOAを締結した。 【受入】 2021年度から開始する留学生受入コース(4か月)のプログラムとして、英語のみで受講可能な7科目(16単位)のコースを準備した。 【派遣】 単位取得を伴う留学のための学内体制を整え募集を行った。 【特に優れた取組】 提携校との交換留学プログラムとして、英語のみで受講できる留学生受入れコース(7科目16単位)を設定し、2021年度から開始に向けて双方の大学で募集を開始した。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 米国在住の特任教員を配置し、COIL授業実施の促進に向けてコーディネートを進めた。また、Webサイトのリニューアルと映像資料の充実化を進め、SIGLOC参加者のコメント動画やSNS広告による学内外への周知、SIGLOC参加者アンケートの公開等を行った。 【特に優れた取組】 COIL授業連携先の拡大とWebサイトやSNS、映像を活用した情報発信、成果の公開およびPRを進めた結果、2021年度のCOIL授業増加や提携校以外の海外大学からのSIGLOC参加者増加に繋がった。
(2) 特記すべき成果
多国間で実施できる完全オンライン型の研修プログラムSIGLOC-onlineを開発・実践した。米国在住特任教員を配置し、米国の提携校拡大とCOIL授業実施に向けたコーディネートを精力的に進めると同時に、本学COIL授業を増やすため英語教員等との学内連携を図り、2021年度は新たに5科目7クラスのCOIL科目開講が決定した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

非同期を主体にした学修プログラムの作成: SIGLOC参加者の通信環境の違いによって取り組みのプロセスや成果に差が出ないように、非同期型COILを中心に学修が進められるプログラムを構築した。個人学修とグループワークを組み合わせたプログラム設計を行い、グループワークにおいてはグループごとの共有ワークシートを作成、日程ごとに設定されたタスクに従って一人の学生がシートに書き込むと、次の時間帯のメンバーが先行の学生に続けて自分の作業を行う、さらに次の時間帯の学生もそれに続く（我々は「地球グルグル型」学修モデルと呼んでいる）という形で、オンラインプラットフォームを介して協働学修を進めるプログラムを組んだ。また、適宜グループメンバー同士で自主的に同期型COIL（ビデオ会議等）を設定するよう推奨し、時間帯の近い学生同士での同期セッションも随時行われていた。

学修プラットフォームの充実化: これまで使用してきたGoogle Drive, Slack, Zoomに加え、Canvas LMSやJamboardなどの学習ツールを新たに取り入れ、より統合的で操作性に優れた学修プラットフォームの構築に努めた。タスクの提示や教員からの指示をCanvas LMS上で行うことにより、学生はまずどこにアクセスすれば取り組むべきタスクが分かるか明確になり、情報の流れがスムーズになった。併せて、よりカジュアルな情報共有プラットフォームとしてSlackを活用し、これは学生同士の学修上の情報交換や相互交流の促進や学修の進捗確認、リマインド等に役立った。一方、通信インフラの整備が十分でない地域の参加者にはオンラインツールの利用に不慣れな学生も多く、ドキュメント共有による協働学修の過程で、他の学生の書き込みに上書きしてしまったり、誤ってファイルを削除してしまうなどのトラブルも散見した。これらの課題については、よりの確なガイダンス実施等により改善を図っていく。

交流プログラムの実施: 非対面のプログラムにおいて、学修タスクへの取り組み以外に、世界各地から集まった学生が互いの文化・習慣や個人的な関心事を共有できるよう、参加者主体の課外活動としてCultural Activitiesを組み込んだ。Slack上でクイズを出し合ったり写真を投稿したり、チームごとにCultural Presentationを作成・公開し、互いに閲覧・コメントし合うなどインタラクティブな交流を支援促進した。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)	5人	5人	23人	25人	26人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	2人	2人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	2人	2人
	無	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	1人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	1人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	5人	5人	23人	23人	23人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	5人	23人	23人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	人	人
	無	0人	0人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)	5人	5人	23人	25人	26人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	2人	2人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	2人	2人
	無	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	1人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	1人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	5人	5人	23人	23人	23人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	5人	23人	23人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	17 人	25人 人			6人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	8人	17人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	17人	0人	8人	17人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	8人	人	6人	人	人	人	人	人	人	人
	無	17人	人	人	17人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)	340.0%	500.0%			26.1%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2019年度末（2020年3月）、アンドリュース大学で実施する予定であった2週間のSIGLOCに向けて渡米直前、新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽渡米が中止され、完全オンライン型で実施することになった。当初の渡米プログラムに参加予定だった学生の一部から辞退があったものの、オンラインになったことで渡米予定ではなかった新たな学生が加わり、合計8名の本学学生が参加した。

COVID-19の感染拡大が懸念される中、2020年度は2回のSIGLOCを最初からオンラインで計画・実施したところ、8月のSIGLOCは日本人学生2名、2021年3月のSIGLOCは日本人学生4名が参加した。8月研修の参加者は、オンライン型研修のアドバンテージを利用して社会人学生であった。一方で、3月の参加者は渡航できない代わりに海外学生との交流を積極的に探していた参加者や、指導教員からの声掛けがあって挑戦した参加者もいた。2022年度に統合する大阪府立大学から参加があったことも付記しておく。

オンライン形式のSIGLOCへの日本人学生の参加数が伸びなかった理由として、2020年度は年間を通じて大半の授業が遠隔授業中心となったことにより、学生がいわゆる「オンライン疲れ」を感じていることが一因にあるのではないかとと思われる。さらに、本プログラムは国際的な研修であるが、一般的な語学研修とは趣旨・目的が異なるものであり、非同期型COILを中心とした海外学生とのオンライン協働学修や交流がどういうものか、学生たちが具体的にイメージできなかったことがあるのではないかと考えている。これは、本学の通常授業でCOILを実践している科目が少ないことと無関係ではないと推察され、更なるCOILの学内普及推進が必要であるとの認識もっている。なお、2021年度からはSIGLOCは単位取得ができる授業として開講される。

【特に優れた取組】

もともと米国もしくは日本で実施予定であったSIGLOCを、渡航が出来なくなったことで中止とするのではなく、完全オンラインで実施し、オンライン研修プログラムの作成と実施の経験を蓄積するとともに、オンライン形式においていかに社会課題の現場とリンクしたフィールドワークを取り入れるかを追求した。対面形式の代替としてのオンライン研修ではなく、自律的な価値と意義をもったオンライン研修プログラムの完成に向けて、取り組みを続けている。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)	20人	20人	20人	22人	23人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	2人	2人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	2人	2人
	無	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	1人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	1人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	20人	20人	20人	20人	20人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	20人	20人	20人	20人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)	20人	20人	20人	22人	23人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	2人	2人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	2人	2人
	無	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	1人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	1人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	20人	20人	20人	20人	20人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	20人	20人	20人	20人
	無	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			
年度別合計人数 (D)	25 人	22人 人			48人 人			0人 人			0人 人			
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	
		19人	3人	0人	0人	48人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
【交流形態別 内訳】														
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		25人	19人	3人	0人	0人	48人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	3人	人	人	48人	人	人	人	人	人	人	
	無	25人	19人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (D/C)		125.0%	110.0%			240.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

前述の通り、2020年度のSIGLOCはオンライン形式の実施に切り替えたところ、本学のみならず提携大学においても学年暦の変更を余儀なくされ、研修スケジュールの調整が叶わず、提携大学の学生参加が見込めなくなった。このため、広く海外の大学に広報し参加者を募ったところ、8月のSIGLOCは6カ国[地域]から22名、2021年3月のSIGLOCは6カ国[地域]から26名の外国人学生が参加した(参加国・地域数はいずれも日本を除く参加者の居住地)。

オンライン・プログラムの作成に際しては、2020年3月に急遽対面（渡米）からオンライン実施に切り替えたSIGLOCの経験を踏まえ、非同期型COILを主体に、時差を利用して各国の参加者がリレー式でタスクを進める方式や、参加者の居住地の時間帯を考慮した小グループによる取り組みを実践した。

アフリカからの参加者の通信環境や電力供給状態がグループワークの進捗に及ぼす影響についても経験し、その後、更なる改善を検討して臨んだ2021年3月では、完全に非同期であっても最後まで参加・修了できるようなプログラムの完成をめざし、新たなオンラインツール（Canvas LMS等）を取り入れ、学修プラットフォームの充実化を図った。

学修タスクの取り組みとは別に、学生同士の交流の機会を設けるため、参加者をチームに分け、チーム別のCultural Activitiesの機会を提供したところ、チームロゴやスライドの作成を通してメンバー間の交流やまとまりができたようである。このほかSlack上でのフォトセッションやクイズ大会なども自主的に実施していた。

2021年度は夏季に2回のSIGLOC-online、3月には日本で実施するSIGLOCを計画している。

【特に優れた取組】

SIGLOCがオンライン形式での実施となったことに伴い、提携校以外に世界中の大学から広く参加者を募ったことで、海外からの参加者数が増加し、参加者のバックグラウンドも多様化した。海外提携大学との渡航交流が止まる中でもSIGLOCを通して交流は活性化した。これは助成終了後の本事業の展開について有力な方向性を示唆しており、より斬新な発想と方法に基づく国際協働学修への可能性を示すものである。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数	
2021年後期	国際ビジネス演習	18	人
2022年2月~3月	OCU International Exploration Program	15	人
			人
			人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：大阪市立大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	2	3	3	3
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	4	5	6	7	8
全授業科目数 (B)	3379	3379	3379	3379	3379
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	20	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	20	20	40	40	40

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	3				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	2	3	3	3
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	4	5	6	7	8
全授業科目数 (B)	3379	3379	3379	3379	3379
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	20	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	20	20	40	40	40

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：大阪市立大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	3	4		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	3	4		
全授業科目数 (B)	3379	3379	3379		
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	45	60	107		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	53	71	83		

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	3	4	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	3	4	0	0
全授業科目数 (B)	3379	3379	3379	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	45	60	107	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	53	71	83	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】¹位：認定者数は人、認定単位数は単位

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：大阪市立大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数				1	2
	認定単位数				8	28
	認定者数				1	1
	認定単位数				8	8
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	2	3
年度別認定単位数合計		0	0	0	16	36

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	0	0	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】¹位：認定者数は人、認定単位数は単位

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：大阪市立大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
アンドリュース大 学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
イワノイ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
アーバナ・シャンペ ン校	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	○上智大学、お茶の水女子大学、静岡県立大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発		
	【英文】	Development of Exploratory COIL (Collaborative Online International Learning) Programs toward Human Security and Multicultural		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	伊呂原 隆	(所属・職名) 上智大学 学務担当副学長	
	(交替年月日)	令和3年4月6日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1	カリフォルニア大学デービス校	University of California, Davis	米国
	2	ボストン・カレッジ	Boston College	米国
	3	シアトル大学	Seattle University	米国
	4	ロヨラメリーマウント大学	Loyola Marymount University	米国
	5	ゴンザガ大学	Gonzaga University	米国
	6	ポートランド大学	University of Portland	米国
	7	ノースカロライナ大学シャーロット	The University of North Carolina at	米国
	8	マルケット大学	Marquette University	米国
	9	サンフランシスコ大学	University of San Francisco	米国
10	ヴァッサー大学	Vassar College	米国	
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/global/sekaitenkai/coil.html				
https://www.ocha.ac.jp/index.html				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

事業3年目は新型コロナウイルスの影響を受け渡航を伴う交流が中止となった他、授業形態の変更等で日米双方の教員負担が増加する中、マッチングに支障が出るケースもあった。その中でも、オンライン交流の開始、3大学合同FDの促進など、次年度以降に繋がる様々な取り組みが進んだ。

現地への派遣を前提に企画していた短期派遣プログラムをオンライン開催に切り替え、計40名の学生をオンライン派遣した。一方で、学生受入はオンラインの切り替えに困難もあり、前年度からの継続者2名のみとなった。

受入・派遣双方にとって留学意欲を継続させるための施策として、連携大学との学生交流イベントを開催した。

【特に優れた取組】

お茶の水女子では、3月にヴァッサー大学と「国際学生フォーラム」をオンライン開催。約5カ月前から毎月1回、講演会や合同授業を実施。学生にバディを組ませて先行研究や理論などに基づき発表準備を重ね、よりグローバルで多角的視点からの学びができるようにした。また、極力教員は運営に関与せず、学生自らがフォーラムを作り上げたという達成感、効力感を得られるよう工夫した。

静岡県立、上智は、米国ボストンカレッジ、モンゴルのドルノゴビ医科大学、タイのコンケン大学の4か国5大学を接続し、国際看護に関するCOILをおこなった。学生からは、「文化だけでなく、治療や予後のアプローチ方法も違うため、互いにそれぞれの文化背景を理解し、尊重し合う姿勢が大切だと改めてわかった。」といった声が出た。

上智大学では「国際協力論」で移民をテーマに1年間を通してヴァッサー大学と連携をおこなった。春学期に米国側の学内団体Vassar Refugee Solidarityが作成した移民支援の活動に関するビデオを視聴した後、夏期集中講義や秋学期中に日本国内の有識者等にオンラインでインタビューを行った。成果物として、日米の比較を織り交ぜたプレゼンテーションビデオを作成し、米国学生からのフィードバックを受けたことで、非同期ながらも期間・内容ともに充実した交流が実現した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

広くオンライン教育の質的向上を目指し、連携大学のボストンカレッジによるFDを開催した。3大学から16名の教員が参加し、オンライン教育における学生参加の促進やインストラクショナル・デザインについて学んだ。また、各学期3大学教職員が参加するワークショップを実施し、コロナ禍におけるCOILの実践経験を共有した。お茶の水女子では、COIL授業の受講者ならびに担当教員へのアンケート調査を実施した。

【特に優れた取組】

12月には米国のCOILの第一人者であるJon Rubin氏による講演会を開催した。3大学から計47名が参加し、COILの基礎理論や組織の状況に合わせた展開方法や意義について講義を受けた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

上智は、キャンパス入構制限に対する緊急措置としてZoom窓口を設置した。事前予約不要で職員と話すことができ派遣中止学生のフォローやオンラインプログラム参加者への説明等、きめ細やかな個別対応が可能となった。

お茶の水女子では、2022年4月の開寮を目的に、留学生も入居可能な新学生宿舎をキャンパス内に建設中。入居者間の交流を深めるため、談話室、クッキングスタジオ、フィットネススタジオ、シアタールーム等を設置予定。

【特に優れた取組】

上智では、通常は交換留学等への参加準備を通じた学習を主眼に開講している授業科目「留学準備講座」にて、米国シアトル大学とのCOILを導入した。渡航再開後の留学先として学ぶだけでなく、同大学学生との交流を通して、オンラインでも行える国際交流の可能性を考える貴重な機会となった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

3大学合同でCOIL事業の英語パンフレットを作成した。お茶の水女子大学は米国大学等に提供する英文パンフレットも作成した。静岡県立大学では大学広報誌、静岡県庁広報誌での情報発信やJASSOのウェブマガジンへの寄稿を行った。また、お茶の水女子、静岡県立ともに、COIL専用ウェブサイトを構築した。各科目でのCOIL導入実績や関連する取り組みを学内外に掲載する。

【特に優れた取組】

COIL実践のグッドプラクティスをまとめた英語版パンフレットを3大学共同で作成した。日米の担当教員が自身のCOIL事例について執筆し、参加した学生の声や企画段階から実施までの流れ等も盛り込み、より実用的な一冊となった。ウェブサイトでの公開に加え、新たにCOILに取り組む米国側教員の開拓にも役立てたい。

(2) 特記すべき成果

春期休暇中のゴンザガ大学と国内3大学合同開催プログラムを、対面からオンラインに切り替えて実施した。日米4大学によるCOILを秋学期中に渡って実施した後、3大学計30名の学生をゴンザガ大学が提供するオンラインプログラムに派遣した。まずは国内やアジアにおけるジェンダーと多様性に関する諸問題について様々な視点から学ぶ国内COILを行い、日米間のCOILによってリーダーシップの文化や社会課題に関する比較学習を経て、短期プログラムにて米国における包摂的リーダーシップの実践について学んだ。COILと本事業の連携枠組みを活用した取り組みになったと共に、リーダーシップとジェンダーや多様性には学生の関心も高く、非常に活発な議論が展開された。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

世界各地でオンライン化が進み、複数拠点との同時接続や、同一科目で複数回のCOILを実施するなど、内容の充実化が進んだ。3大学連携を生かした取り組みとして、Gender Studiesをトピックに、米国ゴンザガ大学と国内3大学で秋学期を通じたCOIL授業を実施した。

静岡県立大学では、1月に看護学部「国際看護論」及び「最新看護の動向」で、上智、ボストンカレッジ、モンゴルのドルノゴビ医科大学、タイのコンケン大学の4か国5大学を接続し、約100名の学生が学んだ。ボストンカレッジ講師による「病院から在宅へのトランジションにおける心不全患者のセルフケア」をテーマとした、米国での事例分析を通じて、自宅移行期の患者の管理リスクや支援のあり方等について理解を深めた。学生からは、「文化だけでなく、治療や予後のアプローチ方法も違うため、互いにそれぞれの文化背景を理解し、尊重し合う姿勢が大切だと改めてわかった。」といった声が出た。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		21人	75人	81人	89人	94人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	20人	50人	55人	55人	60人
	COIL型教育の活用の有無	有 20人 無 0人	有 50人 無 0人	有 55人 無 0人	有 55人 無 0人	有 60人 無 0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	1人	17人	18人	26人	26人
	COIL型教育の活用の有無	有 1人 無 0人	有 17人 無 0人	有 18人 無 0人	有 26人 無 0人	有 26人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	8人	8人	8人	8人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		21人	75人	81人	89人	94人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	20人	50人	55人	55人	60人
	COIL型教育の活用の有無	有 20人 無 0人	有 50人 無 0人	有 55人 無 0人	有 55人 無 0人	有 60人 無 0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	1人	17人	18人	26人	26人
	COIL型教育の活用の有無	有 1人 無 0人	有 17人 無 0人	有 18人 無 0人	有 26人 無 0人	有 26人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	8人	8人	8人	8人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人	有 8人 無 0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人	有 0人 無 0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	26 人	104人 人			40人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		104人	0人	0人	0人	40人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	25人	82人	0人	0人	0人	17人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	25人	72人	0人	0人	0人	17人	0人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	0人	10人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	20人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	0人	20人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	1人	2人	0人	0人	0人	23人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	1人	2人	0人	0人	23人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	123.8%	138.7%			49.4%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルスの影響により、2020年度を通して渡航を伴う学生派遣は取り止めとなった。3ヶ月以上の交換留学のオンライン化も検討され、大学全体としてはオンライン派遣に至った地域・大学もあった。しかし全体としては、時差がある中でオンラインで長期間履修することの難しさや、米国連携大学でも受入れ環境が整わない事情もあり、本事業の連携先では実施に至らなかった。

一方で、短期の学生派遣プログラムについてはオンライン化が進み、お茶の水女子大学からは国際学生フォーラム(ヴァッサー大学)へ6名、上智大学からは語学講座(カリフォルニア大学デービス校)へ4名、そして3大学合同でInclusive Leadershipをテーマとした集中講座(ゴンザガ大学)へ30名を派遣した。オンラインの短期派遣であっても事前準備やプログラム内でCOIL型手法を用いた。

【特に優れた取組】

3大学合同でゴンザガ大学と連携したプログラムでは、まず秋学期中に国内大学でのCOIL型合同講義を3回、ゴンザガ大学の講義に3大学学生が参加する形式を3回、合同プレゼンテーション、を通してGender Issuesの各論と、国内・アジア・日米の比較を行った。それらを踏まえて、春期休暇中にゴンザガ大学が提供する集中講座では、包摂的リーダーシップに関するより実践的な講義を受講する(プログラム期間:3/1~3/5)。国内COILでは各大学の教員がそれぞれの専門分野から講義を行うなど、国内・日米による連携体制のシナジー効果を生かした取り組みとして促進している。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)		3人	22人	23人	36人	36人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		3人	5人	5人	7人	7人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	3人	3人	3人	3人
	無	0人	2人	2人	4人	4人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	17人	18人	29人	29人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	8人	8人	15人	15人
	無	0人	9人	10人	14人	14人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)		3人	22人	23人	36人	36人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		3人	5人	5人	7人	7人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	3人	3人	3人	3人	3人
	無	0人	2人	2人	4人	4人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	17人	18人	29人	29人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	8人	8人	15人	15人
	無	0人	9人	10人	14人	14人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	5 人	51人 人			0人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		51人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	1人	18人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	1人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
	無	0人	14人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	4人	33人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
	無	4人	28人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	
達成目標に対する 実績の割合 (D/C)	166.7%	231.8%			0.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

上智大学では、2019年度秋学期からの受入留学生2名が2020年度春学期も継続して在籍した。しかしながら、長期派遣と同様、渡航が全面的に中止され、またオンラインでの交換留学の実施には課題も多く、新規の学生受入には至っていない。当初計画していたお茶の水女子大学のサマープログラム（ヴァッサー大学）はオンラインで開催したが、米国の10大学からの参加者はいなかった。静岡県立大学の静岡スタディツアーなどの受入企画も、新型コロナの影響で実現できなかった。

一方で、留学を希望していた日米学生のオンラインの学生交流イベントを開催するなど、オンラインでの交流によって、協定大学との学生交流の継続と、渡航再開後の日本への留学希望者の維持に努めている。

【特に優れた取組】

コロナ禍によって派遣・受入が中止になった学生同士のオンライン交流イベントを開催した。まずは上智の教員によるミニレクチャーとアイスブレーキングをおこない、その後、コロナ禍での様々な変化について、学生同士でディスカッションをおこなった。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年度春学	交換留学生受入れ（2名をオンラインで前年度から継続受入）	2 人
		人
		人
		人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：上智大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	2				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	5	10	20	30	40
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	5	10	20	30	40
全授業科目数 (B)	6810	6810	6810	6810	6810
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	200	400	800	1200	1600
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	20	40	80	120	160

(ii) 国内連携大学 【大学名：お茶の水女子大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	1	2	2	2	2
全授業科目数 (B)	1455	1455	1455	1455	1455
割合 (A/B)	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	40	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	10	20	20	20	20

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：上智大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	14	17		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	9	17	27		
全授業科目数 (B)	7343	7524	7618		
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.4%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	293	149	309		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	25	24	10		

(ii) 国内連携大学 【大学名：お茶の水女子大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	3	4		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	4	4	10		
全授業科目数 (B)	1875	2293	2155		
割合 (A/B)	0.2%	0.2%	0.5%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	25	47	37		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	8	27	54		

(iii) 国内連携大学 【大学名：静岡県立大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	3	4	5	6
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	0	3	4	5	6
全授業科目数 (B)	1427	1427	1427	1427	1427
割合 (A/B)	0.0%	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	0	200	205	210	215
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	0	0	0	0	0

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	2				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	15	26	37	48
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	6	15	26	37	48
全授業科目数 (B)	9692	9692	9692	9692	9692
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	220	640	1045	1450	1855
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	30	60	100	140	180

(iii) 国内連携大学 【大学名：静岡県立大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	8	7		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	8	19		
全授業科目数 (B)	1322	1230	1316		
割合 (A/B)	0.2%	0.7%	1.4%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	10	229	133		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	10	74	29		

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	10	25	28	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	16	29	56	0	0
全授業科目数 (B)	10540	11047	11089	0	0
割合 (A/B)	0.2%	0.3%	0.5%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	328	425	479	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	43	125	93	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	0	9	9	9	9	9	9	9	9

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学【大学名：上智大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ボストン・カレッジ	認定者数	0	0	2	2	3
	認定単位数	0	0	20	20	30
シアトル大学	認定者数	0	0	5	6	7
	認定単位数	0	0	50	60	70
ロヨラ・メアリーマウント大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ゴンザガ大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ポートランド大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ノース・カロライナ大学シャーロット校	認定者数	0	0	2	2	3
	認定単位数	0	0	20	20	30
マルケット大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
サンフランシスコ大学	認定者数	0	0	3	3	4
	認定単位数	0	0	30	30	40
年度別認定者数合計		0	0	16	17	25
年度別認定単位数合計		0	0	160	170	250

2. 国内連携大学【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ヴァッサー大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	12	12	12	12
年度別認定者数合計		0	1	1	1	1
年度別認定単位数合計		0	12	12	12	12

3. 国内連携大学【大学名：静岡県立大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
なし	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	0	0	4	9				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学【大学名：上智大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ボストン・カレッジ	認定者数	0	0	5		
	認定単位数	0	0	49		
シアトル大学	認定者数	0	0	8		
	認定単位数	0	0	94		
ロヨラ・メアリーマウント大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ゴンザガ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ポートランド大学	認定者数	0	0	1		
	認定単位数	0	0	18		
ノース・カロライナ大学シャーロット校	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
マルケット大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
サンフランシスコ大学	認定者数	0	0	4		
	認定単位数	0	0	58		
年度別認定者数合計		0	0	18	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	219	0	0

2. 国内連携大学【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ヴァッサー大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

3. 国内連携大学【大学名：静岡県立大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
なし	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択） 令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	南山大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	日米をつなぐNU ⁴ -COIL ² ～地域に根ざしたテイラーメイド型教育プログラム～		
	【英文】	Connecting Japan and the U.S. through NU ⁴ -COIL ² : A Regionally Deep-Rooted Tailor-Made Educational Program		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	星野 昌裕	(所属・職名) 南山大学・グローバル化推進担当副学長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL <small>※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用</small>				
https://office.nanzan-u.ac.jp/nu-coil/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 コロナ禍において、派遣は連携校が提供するプログラムのオンライン受講を可能とし、受入はLMSを活用した学習管理や学生支援体制を充実させてオンライン化に取り組んだ。米国連携校とのCOIL型授業は新たな教員間の連携が成立し分野の裾野が広がった。国際産官学連携PBL科目を1科目増設し、履修者は前年度比で約3倍に増加した。長期留学からの帰国学生も多く履修しており、留学後の科目としての位置付けが定着した。さらに、オンライン交流プログラムを定期開催し、より多様な学生に国際交流の機会を提供した。オンラインプログラムはポスト・コロナにおいても実留学と組み合わせて継続して行く予定である。
【特に優れた取組】 国際産官学連携PBL科目では、新たに地元自治体である愛知県および民間企業と連携し、インバウンド増加に向けた「最高の愛知旅」を提案する課題に取り組んだ。大学主導のもと、産官学が一体となり地域課題をCOIL型授業で扱い、日米の学生が社会課題と向き合いながらグローバル人材となる本事業の本質を体現している。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 米国8連携校とNU-COIL連携協議会を7月と2月に開催した。コロナ禍における各大学の授業運営や単位認定を含むオンライン留学の方針を共有し、学生間の国際交流継続の重要性を再確認した。今後もオンラインを活用した対面の会議を定期的に開催し、COIL型授業数の増加やプログラムの改善につなげる。
【特に優れた取組】 コーディネーターや事務職員同士の密な連携を基に、学生に対して最新の情報を適切なタイミングで提供することができた。双方向モビリティ、COIL型授業、オンライン国際交流の取組みが連携校の教職員および学生に着実に浸透し、アリゾナ州立大学においては交換人数枠の拡大につながった。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 日本人学生の留学意欲を向上させるために留学探求セミナーや成果報告会を開催し、さらに留学アドバイジング制度を充実させた。受入学生に対しては、LMSを活用した学習管理や日本人学生との学習機会の確保に努め、オンライン履修を継続しやすい環境を整備した。蓄積されたオンラインを活用した学修支援のノウハウを活かし、企業体験のオンライン化など新たな学びの環境の構築を目指していく。
【特に優れた取組】 成果報告会では、派遣留学からの帰国学生が留学予定の学生に対し留学成果を発表したほか、帰国した受入学生が作成した大学紹介動画を共有した。成果発表後には学生同士が直接話し合う座談会を開催した。参加学生からは現地での生活や学習内容が具体的にわかり有意義であったとのフィードバックが得られた。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 国際産官学連携PBL科目の特集記事やCOIL型授業担当教員の実践レポートをシリーズ化してWeb上に掲載し、学内外教員や企業等に積極的に成果を普及した。3月にオンラインで開催したシンポジウムには国内外60余りの大学から150名近くの参加があり、本学の取組内容や授業運営のノウハウを意見交換を交えて広く共有した。
【特に優れた取組】 愛知学長懇話会の枠組みで他大学生も履修可能なCOIL型授業の周知を、特設WebやSNSを活用して積極的に行い延べ2名・2科目の出願につながった。他大学からの履修者をさらに促すために、県内6大学の国際教育担当教職員と一堂に会す機会を設け、COIL型授業の学習成果の共有を図るとともに意見交換を行なった。
(2) 特記すべき成果
実渡航の目処が立たない中、受入・派遣ともに単位付与を伴うオンラインプログラムの開発を行い、参加者のモチベーション維持を図るために支援体制を充実させた。また、連携校と調整を図り、学生同士の自由な交流を促すオンラインプログラムを定期的実施した。このような取組を通じて、諸事情で留学が難しかった学生に対してても国際的な学びの環境を創ると同時に、コロナ収束後の留学のための動機づけが積極的に行われた。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

受入プログラムにおいて、対面授業と同等の質を担保しながら学生のオンライン履修の意欲を高めるために、下記の工夫・改善を図った。

○学修支援：米国で広く普及している学習管理システム（Canvas）を全科目に導入し、担当教員向けのFDを実施した。学生の学習状況や理解度を教員が共有することで、適切かつタイムリーな指導が行えた。

○時差の配慮：同期型授業とオンデマンド授業を組み合わせ上で、十分な授業時間数を確保した。

○Zoomによるオフィスアワー：個別の学生の学修状況に対して丁寧な指導や助言を行うことで学生のモチベーション維持に貢献した。担当教員に対してメンタルケアに関するFDを実施した。

○日本人学生との交流の機会の確保：Language Buddyを割当てたほか、日本人学生TAが会話練習や宿題サポートを行う“Virtual Japan Plaza”を構築し、外国人学生の日本語学習の意欲を高める工夫を行なった。

【短期派遣】

「NU-COIL短期留学プログラム」は、派遣先大学の教員と早い段階から協議を開始し、下記の工夫・改善を図った。

○質の確保：当初計画していた現地の日本語授業への参加、日本文化紹介のプレゼンテーション、グループでのビデオ制作、企業訪問をすべてオンラインで実現した。加えて、新たにスピーチプロジェクトを追加し、学生同士の協働学習機会と発表機会を十分に確保したことで参加学生の語学力向上や異文化理解促進の効果があった。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		16人	100人	107人	109人	110人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	91人	92人	92人	93人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	91人	92人	92人	93人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		6人	9人	15人	17人	17人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	9人	15人	17人	17人
	無	6人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		10人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	10人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		16人	100人	107人	109人	110人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	91人	92人	92人	93人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	91人	92人	92人	93人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		6人	9人	15人	17人	17人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	9人	15人	17人	17人
	無	6人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		10人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	10人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	18 人	104人 人			15人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		104人	0人	0人	0人	15人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	92人	0人	0人	0人	14人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	92人	0人	0人	0人	14人	0人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	8人	12人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	12人	0人	0人	1人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	8人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	10人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	112.5%	104.0%			14.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

【長期派遣】

目標の15名に対して20名の採用を決定し派遣を予定していたが、コロナの影響により派遣を中止し、20名のうち1名がオンラインにてプログラムに参加した。

【短期派遣】

目標の92名（アリゾナ州立大学：80名、ノースジョージア大学：12名）に対して、アリゾナ州立大学のプログラムは中止となり派遣できなかったが、ノースジョージア大学との短期留学プログラムには14名の参加があった。アリゾナ州立大学の短期留学プログラムは、2020年6月の派遣予定であったが、派遣学生数の多さやオンラインへの切り替え準備期間が短かったことで切り替えが難しく中止とし、目標に対する全体の達成率は14%にとどまった。

14名が参加したノースジョージア大学とのオンライン短期留学プログラムでは、前年度に現地にて実施した派遣先学生とのビデオを制作に加えて、スピーチプロジェクトを組み込み、原稿作成、スピーチ練習を経て最終発表を行った。日米文化の相違点や類似点に関して気づきを得、理解を深めることができ、またその過程で、協働する力を育むことができた。コロナの影響により直前で中止となった前年度のケースと比較すると、2020年度の本プログラムにはオンラインならではの利点もあった。経済的な負担を理由に留学を諦めていた学生や課外活動、語学能力への不安など様々な理由により留学に行きづらかった学生にとって、貴重な国際交流の機会となったことが、事後のレポートやインタビューからわかった。留学に行くか行かないかという二者択一ではなく、その間に位置するオンライン留学という機会は、今後の新たな国際教育のひとつの形として必要なものだと考えている。

コロナ禍において蓄積した昨年度のノウハウを活用し、学内のその他の短期留学プログラムも実渡航ができない状況に備えてオンライン化に向けた体制を整備していく。長期留学についても、連携校と調整しながらオンライン受講できるプログラムや授業の情報を収集し学内へ発信する。加えて、昨年度にオンライン受講をした参加者の報告会を実施することを計画している。ポストコロナにおけるオンライン履修の可能性を踏まえ、学修成果や課題を積極的に情報発信していく。

【特に優れた取組】

ノースジョージア大学での短期派遣において、現地訪問時に予定していた日本語授業への参加、日本文化紹介プレゼンテーション、グループでのビデオ制作、企業訪問などすべてオンラインで実現した。新たにスピーチプロジェクトを追加し、学生同士の協働学習機会と発表機会を十分に確保したことで参加学生の語学力向上や異文化理解促進の効果があった。オンライン企業訪問では現地で活躍する本学OBと直に話をする機会を設けたことで参加学生から高評価を得た。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
年度別合計人数 (小計3)	6人	27人	41人	35人	44人	
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	19人	18人	19人	18人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	19人	18人	19人	18人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6人	8人	13人	16人	16人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	8人	13人	16人	16人
	無	6人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	10人	0人	10人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	10人	0人	10人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】					
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人
	無	人	人	人	人

●合計人数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
合計人数 (C=小計3+4)	6人	27人	41人	35人	44人	
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	19人	18人	19人	18人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	19人	18人	19人	18人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6人	8人	13人	16人	16人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	8人	13人	16人	16人
	無	6人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	10人	0人	10人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	10人	0人	10人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	9 人	31人 人			4人 人			0人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		31人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	16人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	16人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	9人	15人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	15人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	9人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
COIL型教育の活用の有無	無	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	150.0%	114.8%			9.8%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

【長期受入】

目標13名に対して18名を採用し受入予定であったが、コロナの影響により渡航を伴った受入が中止となり、オンライン化したプログラムの受講者は4名であった。

【短期受入】

単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流での目標値の18名および単位取得を伴わない交流期間3ヶ月未満の交流での目標値の10名はいずれも短期受入プログラムであり、コロナ影響により実施を中止とした。その結果、目標に対する全体の達成率は9.8%にとどまった。

目標に対する全体の達成率は9.8%にとどまったが、オンラインイベントを定期的に開催して日米双方の学生が参加できる国際交流の場を提供した。また、受入プログラムをオンラインで受講する学生のモチベーション維持を図るために、Language Buddyの割当てや日本人学生TAが会話練習や宿題サポートを行う“Virtual Japan Plaza”を構築し、日本人学生との交流の機会を確保した。

コロナ禍において構築した本受入プログラムの成果や課題を参加者からフィードバックを得て検証し、今後のプログラム改善につなげていく。参加学生から得たフィードバックやオンラインプログラムの学修支援体制を連携校コーディネーターに共有し、実渡航が再開するまでの選択肢として広く周知していく。

【特に優れた取組】

渡航が叶わなかったがオンラインでプログラムに参加した学生に、本学の学生との交流機会を設けるためにLanguage Buddy制度を開始した。「時差もある中、授業をオンラインで受講するのは容易ではなかったが、バディとの交流で心休まり学修意欲を保つことができた」とのフィードバックがあった。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	13	17	21	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	17	30	38	48
全授業科目数 (B)	5634	5634	5634	5634	5634
割合 (A/B)	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	0.9%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	260	340	420	480
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	15	195	255	315	360

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	13	17	21	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	3	17	30	38	48
全授業科目数 (B)	5634	5634	5634	5634	5634
割合 (A/B)	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	0.9%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	20	260	340	420	480
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	15	195	255	315	360

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	25	18		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	5	38	38		
全授業科目数 (B)	5634	5289	5393		
割合 (A/B)	0.1%	0.7%	0.7%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	90	410	294		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	50	475	353		

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	25	18	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	5	38	38	0	0
全授業科目数 (B)	5634	5289	5393	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.7%	0.7%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	90	410	294	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	50	475	353	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ノースジョージア大 学	認定者数	0	1	2	3	3
	認定単位数	0	20	40	60	60
ノーザンケンタッ キー大学	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
メリーランド大学ボ ルティモアカウ ンティ校	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
アリゾナ州立大学	認定者数	2	3	4	5	5
	認定単位数	40	60	80	100	100
ニューヨーク市立大 学クイーンズ校	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
ディキンソン大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	20	20	20	20
ジョージタウン大学	認定者数	1	1	1	1	1
	認定単位数	20	20	20	20	20
パデュー大学ノース ウエスト校	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	20	20	20
年度別認定者数合計		6	9	15	17	17
年度別認定単位数合計		120	180	300	340	340

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	8	8	8	8	8	8				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ノースジョージア大 学	認定者数	0	0	1		
	認定単位数	0	0	13		
ノーザンケンタッ キー大学	認定者数	0	1	3		
	認定単位数	0	30	73		
メリーランド大学ボ ルティモアカウ ンティ校	認定者数	0	3	2		
	認定単位数	0	25	38		
アリゾナ州立大学	認定者数	0	2	2		
	認定単位数	0	49	31		
ニューヨーク市立大 学クイーンズ校	認定者数	0	1	1		
	認定単位数	0	20	8		
ディキンソン大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ジョージタウン大学	認定者数	0	0	1		
	認定単位数	0	0	16		
パデュー大学ノース ウエスト校	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	23		
年度別認定者数合計		0	7	12	0	0
年度別認定単位数合計		0	124	202	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）
令和3年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 (○が代表大学)	関西大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	グローバルキャリア・マインドを培うCOIL Plus プログラム		
	【英文】	COIL Plus Program to Develop Global Career Mindset		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	藤田 高夫	(所属・職名) 関西大学副学長・国際部長	
	(交替年月日)	令和2年10月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1	デポール大学	DePaul University	米国
	2	西ワシントン大学	Western Washington University	米国
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL <small>※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用</small>				
http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

④交流プログラムの内容

2020年度関西大学では下記のオンラインプログラムを実施した。

【派遣】

・ Entrepreneurship Mindset Program (2021年1～2月)

James Madison大学(米国)、Clemson大学(米国)、Nanyang Polytechnic(シンガポール)とのCOILを組み込み、起業家としてのスキルアップを目的とした短期集中型かつ実践的なプログラムを実施。

・ Global Career Mindset Program (2021年2月)

UC Berkeley校(米国)との共催プログラム。Otterbein University(米国)とのCOILも事前事後研修の一環として実施。海外進学・勤務に必要な能力について模索し、現地の学生や専門家をゲストに迎えた。

【派遣・受入】

・ UMAP-COIL Joint Program 2020 (7～9月)

UMAP(アジア太平洋大学交流機構)と共催し、14か国・地域140名の学生が参加した(うち、19名が本学学生)。SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに7週間実施し、複数のソーシャルビジネス団体の代表者によるレクチャーも行った。

【受入】

・ KU-EOL (Exchange/Engaged Online Learning) (秋学期)

本学のCOIL実施を予定していた一部科目において、本学の協定校や海外連携大学に提供することで、本学学生にとって多様な学生とCOIL実践を通して学ぶ機会を設けることができた。

【特に優れた取組】

UMAP-COIL Joint Program 2020では、環境、貧困、教育、ジェンダーなどのSDGsに関する異なる課題を調査し、オンラインで協働活動を行った。約7週間に渡るプログラムでは、チリ、インドネシア、中国、日本、フィリピン、アメリカなど、14か国の学生たちとの約2か月の共修の後、英語での最終プレゼンテーションを実施した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

昨年度はモビリティプログラムとして実施したUMAPとの共催プログラムを、本年度は完全にオンライン化した。今年度のCOILプログラムでは、海外から参加した学生にデジタル版の「参加証明書」を発行した。この証明書に詳細な活動時間と成績を記し、特に成績優秀者にはCertificate of Excellenceを発行するなど、プログラムの信ぴょう性と学生のモチベーションの維持に努めた。

【特に優れた取組】

もともと本学の日本人学生を対象に開講され、国内外の学生とCOILする機会を設ける目的として実施してきた科目を、海外の学生にオンライン参加型科目として提供するプログラム「Kansai University Engaged/Exchange Online Learning (KU-EOL)」を開始した。11か国17機関から合計100名の学生から応募があり、コロナ禍で実現が困難であったクラス内での国際交流の機会をさらに増やすだけでなく、海外学生との協働学習に関してもより質の高い成果を提供することができた。応募者も予想を上回り需要があることが認識できたため、2021年度も引き続き実施する予定である。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

完全オンライン型のプログラムとして実施している。

コロナ禍状況下での開講であったため、できるだけ多くの学生を受け入れ、そして日本人学生にも参加をしてもらえるように、広く募集した。その結果、定員数をはるかに上回る国内外180名以上からの応募があり選考に大変苦労した。

環境整備としては、**全プログラム参加のコアグループ、ライブ講義のみ参加のサブグループに学生を二分した**ことで、できるだけ多くの学生を受け入れた。immerseUという本事業にて開発を行ったコース管理システムを効果的に活用することで、人数が多くとも個人へリーチできる環境を提供することができた。本プログラムを通して、たとえバーチャルな形であっても、世界中の学生が国際交流を強く求めていることが明らかになった。

【特に優れた取組】

本プログラムおよび関西大学内で実施する4週間以上のCOIL実践については、本事業にて開発を行ったimmerseUというコース管理システムを効果的に活用することで、人数が多くとも個人レベルで使える環境を提供することができている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

学内にCOIL事業に関する委員会を設定しており（グローバル教育イノベーション推進機構運営委員会）、各学部から専任教員が委員として参加し、取組に関する認識の波及に務めた。また、本事業で展開しているプログラムについては、国際部が全学の教員・学生に発信しているLINE、ホームページサイト（SANKUS）などを通して、広くCOILカリキュラムについて周知をしている。

また、本学はTypeAとプラットフォーム事業（TypeB）が連動しているため、国内外問わず本学の取組を広く公開してきた。具体的なコンテンツとしては、その他ACE(American Council on Education)カンファレンス、IVEC(International Virtual Exchange Conference)2020カンファレンス、NAFSA、EAIE(European Association for International Education)2020等の場で、日本におけるCOIL型教育に関する取組情報を共有した。

【特に優れた取組】

本事業を推進しているIIGE(グローバル教育イノベーション推進機構)のウェブサイトでは、COILの実例、セミナー情報、JPN-COIL協議会情報等多くの最新情報を発信している。

(2) 特記すべき成果

本学で展開しているCOIL型教育は、スタンダードなCOIL実践のケースのほかに、2020年度のコロナ禍を経て、多様な学生層のニーズに合わせて様々な発展型のプログラムを生み出した。以下が、主な発展型COILのカテゴリーである。【1】言語学習を主目的としたCOIL（本学名称「Language Learning focused COIL/LLC」）

【2】複数大学が連携して行うCOIL（本学名称「Multilateral COIL-カリキュラム協働構築型」）

【3】IIGEが開発したカリキュラムを多数の大学の学生に提供するCOIL/VEプログラム（本学名称「Multilateral COIL-IIGE発信型」）

【4】国内大学（本学）と海外大学の間で科目履修を許可する相互履修型COIL/VE
※ただし単なる授業参加を行うのではなく、その科目内においてCOIL実践を行う（本学名称「KU-Engaged/Exchange Online Learning/ KU-EOL」）

【5】バーチャルインターンシップ型COIL（本学名称「VIS-COIL」）

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインで学生間の関係構築をうまく促進させる上で、CMSであるimmerseUに加え、Flipgrid等も応用している。また、NYPとのentrepreneurshipをテーマとしたCOILでは、zoom以外にも、discordなどのオンライン作業ツールや、miro等の多人数が一度に参加しブレインストーミングなどの活動を可能にするツールなども適宜用いた。このように、非同期・同期どちらの場合も、学生の参加を積極的に促す工夫を多く取り込んだ。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)(3)それぞれ2ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計1)		2人	65人	82人	90人	91人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	46人	57人	57人	57人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 46人	有 57人	有 57人	有 57人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	2人	19人	25人	33人	34人
	COIL型教育の活用の有無	有 2人	有 19人	有 25人	有 33人	有 34人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数(小計2)		0人	0人	4人	24人	25人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	4人	21人	21人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 4人	有 21人	有 21人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	3人	4人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 3人	有 4人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数(A=小計1+2)		2人	65人	86人	114人	116人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	46人	61人	78人	78人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 46人	有 61人	有 78人	有 78人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	2人	19人	25人	36人	38人
	COIL型教育の活用の有無	有 2人	有 19人	有 25人	有 36人	有 38人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	(内訳)	0人	0人	0人	0人	0人
	COIL型教育の活用の有無	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人	有 0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数 (B)	15 人	21 人			55 人			0 人			0 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	0人	21人	0人	55人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	15 人	0 人	人	15 人	0 人	53 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	15 人	人	人	15 人	人	53 人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	人	人	人	1 人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0 人	0 人	人	5 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	人	人	人	5 人	人	2 人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (B/A)	750.0%	32.3%			64.0%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

上記には、2020年度に渡航を伴う「COILPlus プログラム」として予定していたものをオンライン参加型に切り替えたプログラムにおける参加人数を示している。

従来の目標数値には、交換留学制度等を活用した派遣数も計画に含まれていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、渡航留学募集自体が中止となったため、

派遣が決定することなく、各学期に開講しているCOIL科目等に参加した学生層（ここでは「潜在層」と呼ぶ）が多く存在する。渡航活動を伴わないCOIL型教育のみの

コロナ禍における「COIL Plusプログラム」は、派遣留学を希望していた学生層や、従来では留学を考えていなかった層からも参加があり、より多様なニーズに応じることができたという利点も観察することができた。一方で、オンラインでの活動だけでは満足できないという考え方の学生の層も存在し、コロナ禍の様々な外部要因によって、変化を拒む、いわゆる「自粛モード」で1年を過ごしてしまう者も散見された。

このような様々な背景は、2020年の進捗を語る上で除外することができないと考える。

2021年度も、状況を鑑みながらも、長期型留学へ動き出そうとする学生層についてはCOIL活動への事前参加を促すなどといった取組を開始したいと考えている。本事業のパートナー大学と構築するCOIL Plusプログラムも、

複数を実施予定であり、ハイブリッドもしくはオンラインによるプログラムの提供を夏休み・春休み期間に計画している。これらの活動を通して、派遣数の増加を図っていく所存である。

【特に優れた取組】

UCバークレーおよびNYPと連携し実施したCOILPlusプログラムは、渡航部分を伴わないプログラムでありながらも、関与性の非常に高いインテンシブな協働学習の機会を学生達に提供することができた。詳細な活動については、IIGEが発行する白書 (I-Paper) の最新号(2021年7月) に掲載する。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計3)		5人	21人	26人	37人	37人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		5人	8人	11人	15人	15人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	8人	11人	15人	15人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	13人	15人	22人	22人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	13人	15人	22人	22人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調査分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数 (小計4)		0人	0人	0人	15人	20人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	10人	15人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	10人	15人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	5人	5人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	5人	5人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数 (C=小計3+4)		5人	21人	26人	52人	57人
【交流形態別 内訳】						
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流		5人	8人	11人	25人	30人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	5人	8人	11人	25人	30人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0人	13人	15人	27人	27人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	13人	15人	27人	27人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0人	0人	0人	0人	0人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0人	0人	0人	0人	0人
	無	0人	0人	0人	0人	0人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数 (D)	5 人	17 人			248 人			0 人			0 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	0人	17人	0人	248人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】													
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	9人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	0人	人	9人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	5人	0人	人	2人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	0人	0人	0人	6人	0人	248人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	0人	人	6人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(内訳)	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
COIL型教育の活用の有無	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)	100.0%	81.0%			953.8%			0.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2020年度は、コロナ禍の影響により、交換留学・短期・正規外国人留学生すべての入国が不可となり、本学の学生達も海外の学生とのキャンパスでの共修の場を失った。これを受け、本学では以下のような「発展型COIL」活動・プログラムを新たに作り出し、本事業における海外大学パートナーを含む海外協定関係や関係のある高等教育機関の学生の参加を呼びかけた。

- 【1】言語学習を主目的としたCOIL (本学名称「Language Learning focused COIL/LLC」)
- 【2】複数大学が連携して行うCOIL (本学名称「Multilateral COIL-カリキュラム協働構築型」)
- 【3】IIGEが開発したカリキュラムを多数の大学の学生に提供するCOIL/VEプログラム (本学名称「Multilateral COIL-IIGE発信型」)
- 【4】国内大学（本学）と海外大学の間で科目履修を許可する相互履修型COIL/VE
※ただし単なる授業参加を行うのではなく、その科目内においてCOIL実践を行う (本学名称「KU-Engaged/Exchange Online Learning/ KU-EOL」)
- 【5】バーチャルインターンシップ型COIL (本学名称「VIS-COIL」)

これらの活動が功を奏し、2020年度は、本事業対象の期間からも予定目標数を大きく上回る学生の参加を実現することができた。2021年度においては、日本への入国が可能となり短期滞在等も容易になった時点で、オンラインだけではなく、渡航留学生としても学生を迎えたい所存である。従来から、本学の取組は渡航留学前または後などにCOILを行う「ハイブリッド型」を推奨してきているため、2021年度についても、この数を増やすことに焦点をあてていく。

【特に優れた取組】

上記【3】の「Multilateral COIL-IIGE発信型」においては、秋学期より開始した「Kansai University Engaged/Exchange Online Learning (KU-EOL)」では11か国・地域17機関から合計100名の学生から応募があり、UMAP（アジア太平洋大学交流機構）と共催した「2020 UMAP-COIL Joint Program」では、14か国・地域140名の学生が参加した。これらによって、コロナ禍で実現が困難であったクラス内での国際交流の機会をさらに増やすだけでなく、海外学生との協働学習に関してもより質の高い成果を提供することができた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年8月	2020 UMAP-COIL Joint Program	19 人
2021年2月	Global Career Mindset Program	20 人
2021年2月	Entrepreneurship Mindset	14 人
2021年3月	PIM Virtual Leadership Entrepreneurship Development	2 人

(4) 本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

(i) 代表申請大学 【大学名：関西大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	12				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	11	18	25	33
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	23	30	36	43	50
全授業科目数 (B)	14623	14623	14623	14623	14623
割合 (A/B)	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	275	275	450	625	825
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	330	330	540	750	990

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 代表申請大学 【大学名：関西大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	4	17	19		
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	18	34	34		
全授業科目数 (B)	14443	14314	14264		
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.2%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	105	192	269		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	69	165	586		

(ii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	12				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	11	18	25	33
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	23	30	36	43	50
全授業科目数 (B)	14623	14623	14623	14623	14623
割合 (A/B)	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	275	275	450	625	825
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	330	330	540	750	990

(iii) 国内連携大学 【大学名： 大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)					
全授業科目数 (B)					
割合 (A/B)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)					

(iv) 事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	4	17	19	0	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数 (A)	18	34	34	0	0
全授業科目数 (B)	14443	14314	14264	0	0
割合 (A/B)	0.1%	0.2%	0.2%		
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	105	192	269	0	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	69	165	586	0	0

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：関西大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ニューヨーク州立大学アルバニー校	認定者数			2	3	3
	認定単位数				6	3
ジェームズマディソン大学	認定者数				2	3
	認定単位数				6	6
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	2	5	6
年度別認定単位数合計		0	0	0	12	9

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	0	0	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

【タイプB】

大学名 (○が代表大学)	関西大学		
主たる交流先	米国		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	藤田 高夫	(所属・職名) 関西大学副学長・国際部長
	(交替年月日)	令和2年10月1日	
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用			
https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/			

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

プラットフォーム構築プログラムの内容

ウェビナーの開催

2020年度、本校はウェビナーやワークショップをオンライン上で合計27回主催し、延べ合計1400名を超える参加があった。特に11月27日～3月6日まで開催したオンライントレーニングシリーズ「MOVING FORWARD：オンライン国際教育の新たな創造」では、COILの波及を目的として様々なテーマ講演やトピックディスカッション、ワークショップを開催した。詳細はURLを参照のこと (<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/webinars/detail.php?seq=120>)

JPN-COIL協議会

2018年に発足したJPN-COIL協議会は、2020年度会員数が急速に増加した。更なるCOIL教育を推進するため、会則を改訂して個人会員種別を新たに設置した。それを受け、現在参加大学機関が急激に増加となった。国際会員の入会もはじまり、本協議会のようなネットワークの重要性が高まっていることは明確である。(2021年6月9日現在、正会員37大学、賛助会員7団体、個人会員9名、国際会員5大学が加盟) 詳細はURLを参照のこと (<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/JPN-COIL/>)

I-Paper (IIGE白書) の発行

IIGE白書(通称「I-Paper」)はCOILに関する事業報告、情報共有のリソースの一つとして、2019年4月から定期的に発行し、本年度は計3回発行した。全紙バイリンガルで発行し、より多くの人の手にわたるよう、本機構ウェブサイトダウンロードが可能となっている。本書をダウンロードした人数は、2019年度は17名であったが2020年度は203名と激増し、ダウンロード数も456であったことから国内外問わずCOIL型教育実践への関心度の高まりが伺える。

【特に優れた取組】

Rapid Response Virtual Exchange/COIL Transformation Lab」のCOILトレーニングを委託 American Council on Education (ACE) 主催の上記トレーニングの委託を受け、日米の大学26校がトレーニングを終了した。この取組の成果として、合計13組の日米COILパートナーが成立し、日米間の高等教育機関間の関係構築に大きく貢献することができた。詳細な活動はACEのホームページを参照されたい。
(<https://www.acenet.edu/Programs-Services/Pages/Professional-Learning/Rapid-Response-Virtual-Exchange-COIL-Transformation-Lab-US-Japan.aspx>)

Rapid Response Virtual Exchange/COIL Transformation Lab では、講師研修プログラムは2020年7月～8月に実施した。日米のCOIL教員のスキルアップと養成を目的とした研修内容であった。

(2) 特記すべき成果

コロナ禍によってCOIL/VE(Virtual Exchange)の注目度が一層高まり、COIL科目数(日本)及びウェビナー参加者数が大幅に増加した。特にウェビナーについては、通常の講演やパネルディスカッションに加え、特定のアプリを利用したCOILや国際交流を目的としたCOIL、COILを取り入れた授業のデザイン方法など、より具体的なテーマと扱うワークショップを複数回実施した。また、ウェビナーの一部では同時通訳の機能も取り入れることで、幅広い層へ発信を行う活動も行った。このような尽力の成果として、2019年度228名の参加に対して2020年度は2548名と10倍以上増加した。結果的に、COIL科目数についても、前年度の2倍以上となり、COIL教育の波及に貢献できたと言える。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

2019年度に比べ、2020年度のウェビナー参加者数は11倍増加した。ウェビナーのテーマや内容によって、一般公開のウェビナーや、JPN-COIL協議会及びIIGEネットワーク会員限定のものを開催することで、各ウェビナーへの参加意欲を高めると共に、協議会メンバーシップの付加価値を創出した。またJPN-COIL協議会の申し込みを電子化し、取りまとめのシステム化を図った。さらに、個人会員の設置に応じた会則を改訂し、その詳細をIIGEウェブサイトにも改良を加え明記した。またI-Paperの電子版ダウンロードをIIGEウェブサイトトップページに掲載し、SNSを活用し広く露出させ、ダウンロード数は昨年度の約12倍となった。

2. 取組実績【(1)～(4)各1ページ以内】

(1) 横展開に関する目標と実績											
【事業申請時の達成目標】						【2020年度末における目標の達成状況】					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL型教育を活用する大学が加盟するJPN-COIL協議会への参加大学数(日本)	10	30	50	70	100	COIL型教育を活用する大学が加盟するJPN-COIL協議会への参加大学数(日本)	18	20	29		
COIL型教育を活用する科目数(日本)	40	150	250	350	500	COIL型教育を活用する科目数(日本)	99	170	360		
COIL型教育を活用する大学数(米国)	30	40	50	60	70	COIL型教育を活用する大学数(米国)	21	64	91		
COIL型教育普及のための説明会実施回数(日米) <対面&Webinar形式>	3(日3)	7(日6米1)	7(日6米1)	7(日6米1)	7(日6米1)	COIL型教育普及のための説明会実施回数(日米) <対面&Webinar形式>	5(日4米1)	35(日32米3)	48		
COIL型教育普及のための説明会参加者数(日本) <対面形式>	50	50	50	50	50	COIL型教育普及のための説明会参加者数(日本) <対面形式>	54	120	0		
COIL型教育普及のための説明会参加者数(日本) <Webinar形式>	70	150	200	200	200	COIL型教育普及のための説明会参加者数(日本) <Webinar形式>	24	228	2548		
COIL型教育実践のスキルを本PFのセミナー等で修得し、COIL教育を実施した教員数	40	140	270	450	670	COIL型教育実践のスキルを本PFのセミナー等で修得し、COIL教育を実施した教員数	28	87	163		

(2) 質の向上に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL授業実践のためのEMI※セミナー実施回数 <対面&Webinar形式計>	4	4	4	4	3
COIL授業実践のためのEMI※セミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	100	100	100	100	90
ITトレーニングセミナー実施回数 <対面形式&Webinar形式>	4	4	4	4	3
ITトレーニングセミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	100	100	100	100	90
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 実施回数<対面形式&Webinar形式>	3	3	3	3	3
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 参加者数<対面&Webinar形式計>	60	90	120	120	120
評価手法に関するセミナー実施回数 <対面&Webinar形式計>	4	4	4	4	4
評価方法に関するセミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	60	90	100	120	120
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 実施回数<対面形式&Webinar形式>	4	4	4	4	4
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 参加者数<対面&Webinar形式計>	60	80	90	90	90
各セミナー参加者の研修修了までの達成比率（5種の 全セミナーへの参加、課題提出完了までを遂行）	(全体の) 50%	60%	80%	80%	90%

【2020年度末における目標の達成状況】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL授業実践のためのEMI※セミナー実施回数 <対面&Webinar形式計>	33	9	31		
COIL授業実践のためのEMI※セミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	48	64	2407		
ITトレーニングセミナー実施回数 <対面形式&Webinar形式>	1	10	34		
ITトレーニングセミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	22	140	2548		
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 実施回数<対面形式&Webinar形式>	0	2	6		
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 参加者数<対面&Webinar形式計>	0	27	1500		
評価手法に関するセミナー実施回数 <対面&Webinar形式計>	5	6	10		
評価方法に関するセミナー参加者数 <対面&Webinar形式計>	218	93	1288		
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 実施回数<対面形式&Webinar形式>	1	3	23		
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 参加者数<対面&Webinar形式計>	40	96	2459		
各セミナー参加者の研修修了までの達成比率（5種の 全セミナーへの参加、課題提出完了までを遂行）	0	93.75	92.86		

(3) 任意指標に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①米国と、米国以外の国・地域を取り込んだ高等教育機関におけるCOIL活用実績数	0	15	20	30	30
②COILを用いた発展型プログラムで実現した日米学生のモビリティ数 (Multilateral COIL Program, Joint Honors-COIL Program, Joint AP-COIL Programを含む。In/out総数)	0	15	30	50	50
③IIGEが提供するマッチングサイトを活用し成立したCOIL活動数	0	15	50	50	50
④IIGE-SUNYが提供するWebinar参加者数	200	400	400	400	400
⑤COIL-BEVI効果検証プロジェクトにおける成果発表数	1	2	3	3	3
⑥テストセンターの利用者数	0	20	150	250	300

【2020年度末における目標の達成状況】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①米国と、米国以外の国・地域を取り込んだ高等教育機関におけるCOIL活用実績数	0	23	15		
②COILを用いた発展型プログラムで実現した日米学生のモビリティ数 (Multilateral COIL Program, Joint Honors-COIL Program, Joint AP-COIL Programを含む。In/out総数)	0	47	303		
③IIGEが提供するマッチングサイトを活用し成立したCOIL活動数	0	5	8		
④IIGE-SUNYが提供するWebinar参加者数	0	286	19		
⑤COIL-BEVI効果検証プロジェクトにおける成果発表数	2	4	3		
⑥テストセンターの利用者数	0	13	285		

(4) その他(上記(1)～(3)に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数	
2020年8月	2020 UMAP-COIL Joint Program	19	人
2021年2月	Global Career Mindset Program	20	人
2021年2月	Entrepreneurship Mindset	14	人
2021年3月	PIM Virtual Leadership Entrepreneurship Development	2	人